場に入りました。西南学院大学の同窓生、グリークラブOBの先輩方や先発隊として奔走してくれた岩崎君の努力で、東京の大学合唱関係者多数にご来場いただき、会場は満席でした。 待望の東京での夢にまで見たステージ！アンコールで客演指揮をして頂いた、日本を代表する音楽家であり、かつ名バリトンの畑中良輔先生が、「白いブランコ」の前半をソロされ、2曲目の福永陽一郎編曲、九州民謡の「おてもやん」でお囃子の一斗樽を木バチが「ドンどこドン」と〆めた途端、私の中で何かが弾け、後はもう夢のようでした。

ストームのためホールロビーに走り、「Ah Seinan！」やスーベニールを歌うグリーメンの目には一様に光るものがあったように思います。私も皆と固く抱き合い、演奏会の成功を喜びました。中でも50周年記念委員長として早くから上京し、様々な困難を克服、努力してくれた岩崎君とはお互いに抱き合い、大粒の涙を流しました。

お客様の中には、委嘱作曲をして頂いた清水脩先生、お元気になられた福永先生もお越しになり、我々グリーメンは50周年の歴史を綴ってこられた先輩各位の思いを胸に秘め、第1ステージの「荘厳ミサ曲」と第2ステージの「ロバート・ショウ・アルバム」を佐藤棟也の指揮で、第3ステージの50周年記念委嘱作品、「木下夕爾の三つの歌」と最終ステージの「月光とピエロ」を客演の畑中良輔先生の指揮で、歌い上げました。

最後に、この演奏会を支えて頂きました大学関係者、同窓生各位そして西南グリーの50年の歴史をつくり上げて頂いた先輩各位に改めて感謝とお礼を申し上げます。

50年前の感激を今新たに思い出しつつ、記念誌の1ページを綴らせて戴きました。

記述者　佐藤　棟也（70期）

創立50周年記念特別演奏会

1969年12月20日（土）　6:30p.m.　電気ホール



239×230mm

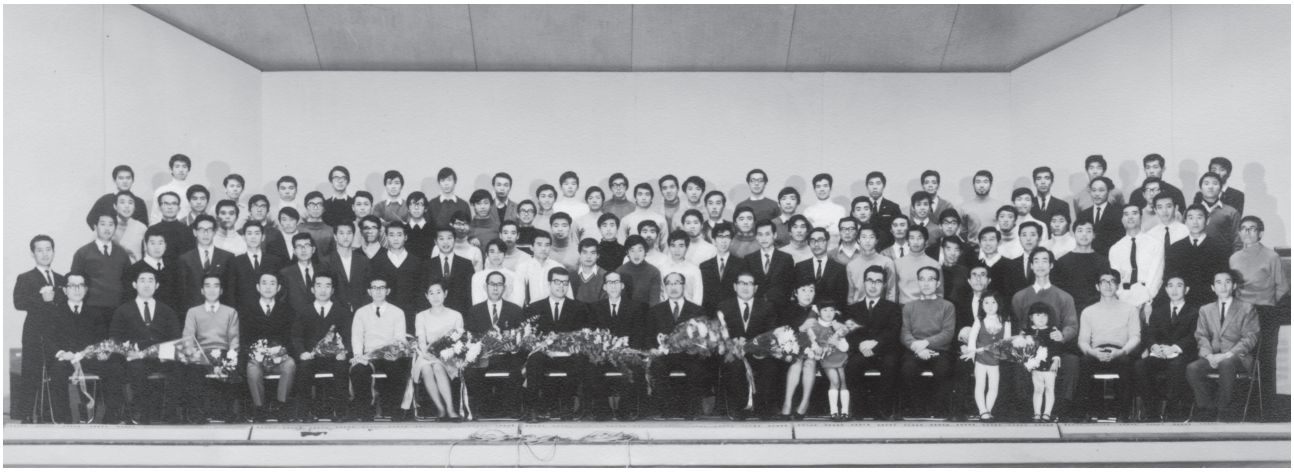
主催：西南学院大学・
　　西南学院グリークラブ OB 会
共催：西南学院大学同窓会
後援：朝日新聞社・
　　KBC 九州朝日放送

Ⅰ　50 周年記念特別委嘱曲
男声合唱組曲「木下夕爾の三つの歌」　木下夕爾：詩　清水　脩：曲
・暮春の笛　・夜の風　・笛を吹くひとよ　指揮：佐藤棟也

Ⅱ　「スカンク・カンク・プー」　サトウ・ハチロー：詩　中田喜直：曲
指揮：谷口俊治　piano：大山早苗

Ⅲ　「思い出の曲集」より　指揮：徳永麟之助、鶴原太郎、河野正暉、野尻良造
・希望の島　・いざ起て戦人よ　・U Boj　・水夫のセレナーデ
・カチューシャ　・十五夜お月さん　・柳河　・Miserere　・Requiem

Ⅳ　クリスマス　ファンタジー　指揮：内海敬三　エレクトーン：中村俊子
テナー・ソロ：木村正昭　司会：中村基樹
カルテット：メロトーンズ＋1
・Veni Emanuel　・O Holy Night　・樅の木　・Rudolph the Red Nosed Reindeer
・Winter Wonderland　・Paper Moon　・愛はもえている　・もろびとこぞりて
・Silent Night　・Go Tell It On The Mountain　・Blue Christmas
・White Christmas　・O Come All Ye Faithful



創立50周年記念特別演奏会（1969.12.20 電気ホール）

創立51周年（1970年度：昭和44～45年）　Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

昭和44年12月20日、電気ホールでの特別演奏会（グリークラブフェスティバル）で創立50周年記念の行事を一通り終え、我々71期生は実質舵取り役のバトンを受けた。

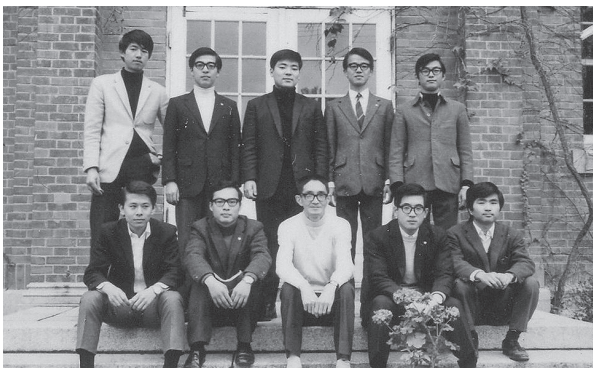
そして50周年が一つの節目となり、それまでの「西南グリー」の恒例活動の幾つかが変更される結果となった。

ひとつは、これまで重要行事のコンクール出場が、創立50周年の昭和44年には無くなり、我々も踏襲した。そして、夏（7月頃）に行われていた定期演奏会を我々の代は11月に。これは、その後も引き継がれていったようだ。「コンクール」重視から「定演」重視のスタンスへの方向転換であり、定演の時期の変更もそれを具現化するための方策であったように思う。もっとも、我々の代のマネージメントにはそのような態勢に至らざるを得なかった理由もあったと思う。

創立50周年記念イベントの目玉として、「西南グリー」初の東京・大阪での演奏会を行った。先代の先輩諸氏及び関係各位の一方ならぬご苦労の下に（同期の飛松富士夫、永末良一の両君も先遣隊の一員として不慣れな土地で奔走した。）50周年は盛況裏に終えることができたのだが、その後、印刷費を中心に当時の金額で40数万円の未払い金が残っていることがわかった。協議を重ねた末、印刷会社の担当者が我々の先輩であったこともあり、迷惑をかけまいと、公式の単独演奏会は定演と久留米のみに絞り、従来、年に十数箇所で実施されていた近隣での演奏旅行を中止し、経費の節減をする等して極力返済に務める事とした。結局、完済はできずに半分程の残りの額を、毎月1万円ずつ返済していくという道筋をつくり、次代に引き継いだと記憶している。

第19回定期演奏会は1970年11月26日（木）、福岡市渡辺通の電気ホールで。プログラムの記録では、T1・12名（70期生の伊藤肇、山元一憲両先輩を含む）、T2・13名、B1・13名、B2・14名の合計52名。第1ステージが学生指揮者谷口俊治により、清水脩作品集より「黙示」と「阿波祈祷文」。第2ステージは、福永陽一郎先生の指揮で「イギリス民謡集」。第3ステージは同じく福永陽一郎先生で、マーラー「さすらう若人の歌」。第4ステージは谷口俊治で「Negro Spirituals」ピアノ伴奏には宝木多加志氏を迎えた。久留米演奏会は11月28日（土）、石橋文化ホールで、全ステージ谷口俊治の指揮。定演と同曲目を演奏した。

70年安保関連の学園紛争、新しい音楽の流れのカレッジフォークブームなどの影響もあり、入学時20名程いた同期生は卒業時には10名と半減。何かと苦難の時代であったように思うが、関学グリーとの交歓演奏会（1970年3月20日、福岡市民会館）でのホームステイ受け入れ、第3回福岡三大学（西南グリー・九大コールアカデミー・福大メールハーモニー）合同演奏会（同6月25日、電気ホール）の指揮者安永武一郎先生から受けた「中洲学」の薫陶、そして雲仙での夏の合唱講習会参加の際のキャンプ等、心に残る楽しい思い出も随所にあった。



福永先生と一緒に

昭和45年5月15日（金）福岡市民会館での、石丸寛指揮東京交響楽団フオーレ「レクイエム」公演への西南グリーとしての参加も忘れ難い。

記述者・倉地　進（71期）



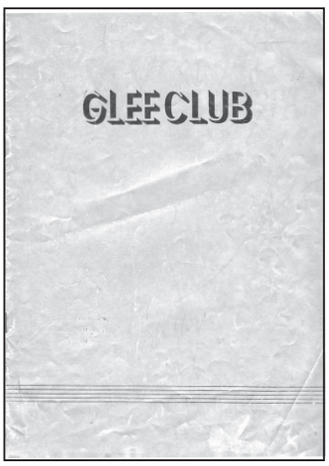
1970.3.20 関学グリー交歓演奏会



1969.08 合唱講習会で　雲仙にて

創立51周年　第19回定期演奏会

1970年11月26日(木)　6:30p.m.　電気ホール
11月28日(土)　6:30p.m.　石橋文化ホール



215×300mm

主催：西南学院大学
後援：西部合唱連盟
　　朝日新聞社
　　KBC 九州朝日放送

Ⅰ　清水脩作品集　　指揮：谷口俊治

・「黙示」　木原孝一：詩　清水　脩：曲
・「阿波祈祷文」　野上　彰：詩　清水　脩：曲

Ⅱ　イギリス民謡集　福永陽一郎：編　　指揮：福永陽一郎

・Green Sleeves　・Oh dear! What can the matter be?
・Molly Malone　・Scaborough Fair　・Annie Laurie

Ⅲ　さすらう若人の歌　G. マーラー：曲　福永陽一郎：編　指揮：福永陽一郎

・君が嫁ぐ日　・露しげき朝の野辺に
・灼熱せる短刀もて　・君が青きひとみ

Ⅳ　Negro Spirituals　　指揮：谷口俊治

・Joshua Fought the Battle of Jerico　・Were You There
・Go Down Moses　・Sometimes I Feel Like A Motherless Child
・Soon A Will Be Done



合唱連盟合唱祭（1970.5.31）



第３回福岡三大学男声合同演奏会（1970.6.25）

部　長：L. B. Fielder

運　営　系
総　務：里中　　健
人　事：飛松富士夫
M　G：永末　良一
sub-MG：山下　悦朗

会　計：小西　真二
sub- 会計：中垣　　登
庶　務：波左間　実
sub- 庶務：二宮　慶史
sub- 庶務：川崎　栄三
OB 連絡係：飛松富士夫

技　術　系
指揮者：谷口　俊治
PL-T1：倉地　　進
PL-T2：窪田　敏博
PL-B1：山下　博英
PL-B2：源川　和正

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
伊藤　　肇 (70)	窪田　敏博 (71)	山下　博英 (71)	源川　和正 (71)
山元　一憲 (70)	永末　良一 (71)	小西　真二 (71)	谷口　俊治 (71)
飛松富士夫 (71)	波左間　実 (71)	里中　　健 (71)	二宮　慶史 (72)
倉地　　進 (71)	馬場　洋一 (72)	林　　秀郷 (72)	中垣　　登 (72)
山下　悦朗 (72)	菊竹　章剛 (73)	川添　敦由 (73)	松田　秋広 (72)
高松　久雄 (73)	廣崎　公伸 (73)	中嶋　恒生 (73)	川崎　栄三 (73)
大司　　真 (73)	太田　俊生 (73)	中村　　潤 (73)	江中　宣夫 (73)
宮原　利文 (73)	真名子文男 (73)	小田　哲生 (73)	百衣　正典 (73)
成尾　幸春 (73)	久本　康生 (73)	宮本　正宣 (73)	伊東　一英 (73)
福富　大助 (73)	森山　秀夫 (73)	安河内雅夫 (74)	松永　　満 (73)
岡　　良治 (74)	中川　正裕 (73)	上田　恒夫 (74)	川越　克明 (74)
浜松　　治 (74)	堤　　和則 (74)	松尾　俊成 (74)	梶原　博司 (74)
	一期崎　平 (74)	中島　良介 (74)	井手　輝実 (74)
			宮原　詳二 (74)

創立52周年（1971年度：昭和45～46年）　Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

我々72期生は大学に於ける学生運動最盛期に入学した影響もあり、グリー入部時には15名いた同期の仲間も卒業時には5名となっていました。

グリーの運営を71期生から引き継いだ最初のステージは大学祭で、児童劇団の子供達の朗読を交え「白いクレオン」演奏。服部公一作曲のこの曲は翌年の西南音楽祭でも好評でした。

昭和46年5月の福岡三大学合同演奏会では、多田武彦の「北陸にて」を三大学合同で演奏、指揮は福教大の平島邦夫氏でした。当時、中央の各大学ではボイストレーナーを導入しており、グリーでも技術的な向上の必要性から、4月から九州芸工大の緒方敏郎先生にお願いし、継続的に指導を受けました。

財政的な事情から、夏休みの演奏旅行は声を掛けていただいた所に限り、大牟田・佐賀・長崎・諫早・久留米を周りました。主要なプログラムは、ミサ曲「Brevis」、「山に祈る」、男声合唱組曲「雨」等で、緒方先生にも同行いただきステージでの指揮もお願いしました。

前年の福岡三大学合同演奏会の縁で、この年の定演での客演指揮は地元の安永武一郎先生にご承諾を得ていましたが、先生の体調が優れず急遽代役の必要を迫られました。安永先生のお力を借りて東京芸大の三石精一氏にお引き受けいただきました。その後の先生のご活躍振りは皆さんがご承知のとおりです。

第20回定期演奏会は昭和46年10月26日、いつもの電気ホールから福岡市民会館に場所を移して開催しました。学生指揮者の林秀郷（72期）が第1ステージで「Missa Brevis」、第5ステージで多田武彦作曲の男声合唱組曲「雨」を、緒方敏郎先生が第2ステージで高田三郎作曲の男声合唱組曲「海」を指揮、三石精一郎先生が第3ステージで「The Beetles Numbers」を指揮されました。そして賛助出演をお願いした西南シャントゥールに第４ステージで「黒人霊歌」を志渡澤享先輩の指揮で歌っていただきました。「雨」は関学グリーの演奏を聞いて感激し，是非自分達もやろうと取り組んだもので、全曲演奏は福岡では私達が初演だと思います。この曲はその後グリーの重要なレパートリーのひとつになりました。ビートルズナンバーにも挑戦しましたが、それまで経験した英語の歌と異なる発音とリズムに大変苦労したことを思い出します。

この年、合唱連盟では永年の懸案であった全国の情報誌「ハーモニー」を創刊することとなり、創刊号の合唱団紹介ページに西南グリーが取り上げられました。連盟事務局から原稿の依頼を受け、過去の定演資料等を参考に提出しましたが、出来上がりは予想以上の出来栄えでした。

グリー在籍４年間、コンクール出場や５０周年記念の東京・大阪演奏会と東西四大学との共演、福永先生に代わり畑中良輔先生指揮の「ピエロ」を歌えたこと等々貴重な思い出であり、経験でした。この年のグリーの課題は部員の増員と財政面の再建でしたが、思うような成果は残せないまま、一緒に苦労してくれた人材豊富な73期生に後を託して私達の役割を終えました。

また、四年間のグリークラブの活動の中で忘れられない思い出の場所は、ランキン・チャペルと“山の家”です。ランキン・チャペルの音響の素晴らしさは、他の大学の合唱団からも羨ましいと言われました。練習に遅れていくと、ホールの中から扉越しに聞こえてくる倍音とハーモニーには感動しました。

干隈にあった“山の家”は年間を通じて合宿でお世話になりましたが、一番の思い出は”おばちゃん”が作ってくれた食事が美味しかったことです。合宿での福永先生の指揮の素晴らしさにも圧倒されましたが、客演でお願いした畑中先生からアンコール曲として「白いブランコ」の歌唱指導をしていただいたことも忘れられません。この二つの施設とも今はありませんが、皆の心の中に残っていると思います。

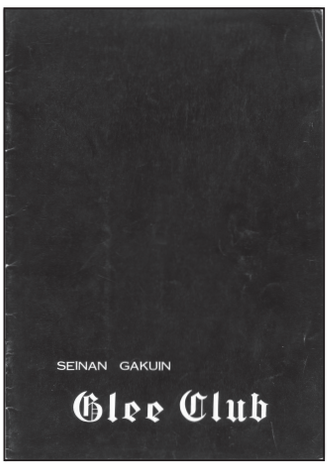
「歌い終え　一呼吸置き　楽譜閉じ」

記述者・山下悦朗（72期）



九州一周演奏旅行　延岡駅前にて

創立52周年　第20回定期演奏会　　1971年10月26日(火)　6:30p.m.　福岡市民会館



210×297mm

主催：西南学院大学
共催：西南学院グリークラブ OB 会
後援：西部合唱連盟・朝日新聞社・KBC 九州朝日放送

Ⅰ **Missa Brevis**　Heinrich Lemacher：曲　指揮：林　秀郷
・Kyrie　・Gloria　・Credo　・Sanctus　・Benedictus　・Agnus Dei

Ⅱ **男声合唱組曲「海」**　北川冬彦：詩　髙田三郎：曲　指揮：緒方敏郎
・あたたかい島にて　・丸い形　・渚　・波　・海景色

Ⅲ **The Seven Beetles Numbers**　宮島将郎：編　指揮：三石精一
piano: 新開寿子
・Day Tripper　・Here, There and Everywhere
・Girl　・Obladi Oblada　・Michelle　・Elearor Rigby　・Yesterday

Ⅳ **賛助：西南シャントゥール　" Robert Shaw Album "**　指揮：志渡澤　亨
・I had a dream, dear　・Cool Water　・Li'l Liza Jane
・I'm Forever Blowin' Bubbles　・Vive L'amour

Ⅴ **男声合唱組曲「雨」**　多田武彦：曲　指揮：林　秀郷
・雨の来る前　・武蔵野の雨　・雨の日の遊動円木
・十一月にふる雨　・雨の日に見る　・雨

部　長：L. B. Fielder

運　営　系
総　務：二宮　慶史
人　事：川添　敦由
M　G：山下　悦朗
sub-MG：江中　宣夫
sub-MG：久本　康生
MG・会計：森山　秀夫
sub- 会計：松永　満
庶　務：川崎　栄三
sub- 庶務：廣崎　公伸
OB 連絡係：森山　秀夫

技　術　系
指揮者：林　秀郷
PL-T1：大司　真
PL-T2：馬場　洋一
PL-B1：中村　潤
PL-B2：中垣　登

TOP TENOR
山下　悦朗 (72)
福富　大助 (73)
成尾　幸春 (73)
大司　真 (73)
宮原　利文 (73)
太田　俊生 (73)
真名子文男 (73)
浜松　治 (74)
岡　良治 (74)
川原　雅彦 (75)
豊田　隆 (75)
森本　敬二 (75)
吉鹿　龍昭 (75)

SECOND TENOR
馬場　洋一 (72)
廣崎　公伸 (73)
中川　正裕 (73)
高松　久雄 (73)
森山　秀夫 (73)
菊竹　章剛 (73)
久本　康生 (73)
一期崎　平 (74)
吉田　彰憲 (75)
原田　保彦 (75)
杉山　秀実 (75)
杉本　哲也 (75)
霜村　元吾 (75)
桐田　明 (75)
砥上　雅壽 (75)

BARITONE
林　秀郷 (72)
中村　潤 (73)
小田　哲生 (73)
川添　敦由 (73)
中嶋　恒生 (73)
松永　満 (73)
松尾　俊成 (74)
梶原　博司 (74)
上田　恒夫 (74)
藤井　政重 (75)
首藤　純 (75)
大庭　美和 (75)
樋口　一法 (75)

BASS
中垣　登 (72)
二宮　慶史 (72)
江中　宣夫 (73)
百衣　正典 (73)
川崎　栄三 (73)
宮原　詳二 (74)
井手　輝実 (74)
白川　博海 (75)
稲田　恒夫 (75)
増矢　勉 (75)
高野　直樹 (75)



東京演奏会のとき同期で



チャペル前にて

創立53周年（1972年度：昭和46～47年）　Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

昭和46年10月の定期演奏会後、我々73期の役員による新体制が発足した。72期生は6名であったが73期生の中にも定演を機に退部するものもあり、この時期の部員数は40～50名の維持がやっとであった。部員の減少や自己申告によるパート移動等の後、ちゃんとハモれるようにすることが緊急の課題であった。

3月23日に「関学グリー」との交歓演奏会を福岡市少年科学文化会館で開催したが、丁度春休み中でもあり、集客に苦労した。部員は入場券の売りさばきに奔走した。演奏会終了後のストームでひとしきり盛り上がった後、関学グリーのメンバーは西南グリーのメンバー宅に分宿し、それぞれに交歓を深めた。

6月は13日が「第5回福岡三大学合同演奏会」14日に「第4回西南音楽祭」さらに25日には「第27回合唱祭」とスケジュールが集中した。この時期のグリーは木曜と日曜日以外は練習日としており、四年生にとっては過密スケジュールの中での就職活動を強いられ、この両立は結構大変であった。

夏から秋にかけては合宿など、11月の定期演奏会のための練習で多忙であった。

第21回定期演奏会は11月9日、福岡市民会館で客演に福永陽一郎氏を迎えて開催した。第１ステージ、第２ステージは学生指揮者の中村潤（73期）が、グノーの「セカンドミサ」と「黒人霊歌」を指揮し、第３ステージは賛助出演の西南シャントゥールが、徳永和彦氏の指揮で「日本の愛唱歌集」を演奏した。福永陽一郎氏は第4ステージで清水重道作詞、信時潔作曲の「沙羅」と第5ステージで福永氏自身の編曲による「サイモンとガーファンクルのヒット曲集」を指揮した。ミサ曲のエレクトーン伴奏と、福永氏指揮の２ステージのピアノ伴奏は辻敬夫氏であった。

我々73期生は、1969年の受験当時が東大安田講堂の学生占拠による所謂「安田講堂事件」勃発の時に入学し、在学中は西南においても「ベトナム反戦行動」「70年安保反対闘争」や「学内自治」等の問題を巡り、学内封鎖、火炎瓶闘争、施設建設妨害、ストが起こり、機動隊が学内に導入される等極めて騒々しい状況にあったが、反面大学の諸施設（体育館・電子計算センター・校舎・西南会館）も建設された。そして1972年2月にはあの「浅間山荘事件」が起こった。学生運動の象徴的な時代がこの時期であったかも知れない。



2001年8月17日　73期 同窓会

福岡市が政令都市となったのは1972年4月、5月には沖縄が本土復帰した。このような激動の社会環境の中、我々グリーメンはひたすらクラブ活動を中心に学生生活を過ごしてきた。

今回この活動報告記述に当たり、同期の仲間達に資料の提出や情報の照会を行ったが、誰も保存していなかった。4年間の学生生活に青春を燃やし尽くしてしまったのかも知れない。

記述者・中嶋恒生（73期）

沙羅と私　（「思い出」より）　　福 永 陽一郎

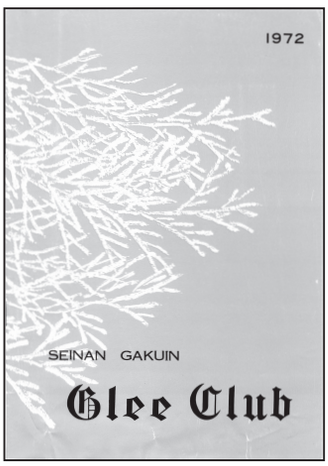
1944年に私は上野の音楽学校の1年生でした。信時潔先生の歌曲集「沙羅」が木下保先生によって初演されたのは、確か死の前年ではなかったかと思います。……ピアノ科の学生だった私も、歌の伴奏が好きで、いつもやっていたので、この病気――「沙羅」愛好病にかかってしまいました。伴奏の部分が、ひどく美しい響きを持っているのも、ピアノの音の可能性を色々に追求できる要素がたくさんあるのも、私をとらえて離さない魅力の一つでした。……「沙羅」の伴奏をピアニスティックに弾くことに熱中しました。そしていつのまにか、「沙羅」の伴奏はこう弾かれるべきだ、という確信のようなものが、私の中に出来てしまっていました。――或る日、私にも、私のクラスメートにも、戦争に引っぱられていく日が来ました。クラスメートの、…浦山弘三君と私は、私たちの十代に到達した一番高い芸術的境地を記録しておくために、「沙羅」をレコードにすることを考えました。……私たちは、私たちの「現在」を、そして最後かも知れないものを、残しておきたかったのです。私たちは一層勉強しました。「沙羅」の詩と音楽は私たちの血や肉と同化したように思えました。

長い年月が流れました。浦山君も私も戦争で死ぬことなく、あの少年の日の”思い上がり”も昔語りとなりました。「沙羅」を歌った日は遠く思い出の彼方に去ってしまったようでした。

……女声合唱団の新しいレパートリィのために、「沙羅」がよみがえりました。この編曲に私は三時間かかりました。この三時間はアッという間に過ぎたようでもあり、まる数日過ごしたようでもありました。私が私自身でなくなったような、まるで「沙羅」が最初から女声合唱曲であったかのような感じでした。……

（第21回定期演奏会パンフレットより）

創立53周年　第21回定期演奏会　　1972年11月9日(木)　6:30p.m.　福岡市民会館



181×256mm

主催：西南学院大学
後援：西部合唱連盟
朝日新聞社
KBC 九州朝日放送
FM 福岡放送

Ⅰ　2 Eme Messe En Sol Majeur　Charles Gounod：曲　指揮：中村　潤
piano：辻　敬夫
・Kyrie　・Gloria　・Sanctus
・Benedictus　・Agnus Dei

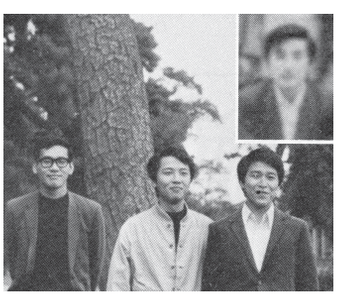
Ⅱ　Negro Spirituals　指揮：中村　潤
・See that Babe in the Lowly Manger　・Deep River
・Honor ! Honor !　・He never said a mumbalin' word
・Ole Ark's a-moverin'

Ⅲ　賛助：西南シャントゥール　「日本の愛唱歌集」　指揮：徳永和彦
・待ちぼうけ　・からたちの花　・赤とんぼ　・平右衛門
・かごかき　・かえろ、かえろ　・中国地方の子守歌

Ⅳ　男声合唱組曲「沙羅」　清水重道：詩　信時　潔：曲　福永陽一郎：編
指揮：福永陽一郎　piano：辻　敬夫
・丹沢　・あずまやの　・北秋の・沙羅　・鴉　・行々子　・占ふと　・ゆめ

Ⅴ　A Paul Simon Songbook　from the great hits of Simon and Garfunkel
福永陽一郎：編　指揮：福永陽一郎　piano：辻　敬夫
・The Sound of Silence　・Mrs. Robinson
・Scarborough Fair / Canticie　・El Condor Pasa
・Bridge over Troubled Water






部　長：L. B. Fielder

運　営　系
総　務：川添　敦由
人　事：真名子文男
M　G：江中　宣夫
sub-MG：砥上　雅壽
会　計：森山　秀夫
庶　務：廣崎　公伸
sub- 庶務：梶原　博司
OB 担当：太田　俊生

技　術　系
指揮者：中村　潤
PL-T1：成尾　幸春
PL-T2：菊竹　章剛
PL-B1：中嶋　恒生
PL-B2：百衣　正典

TOP TENOR
成尾　幸春 (73)
真名子文男 (73)
大司　真 (73)
宮原　利文 (73)
太田　俊生 (73)
垂山　友彦 (74)
川原　雅彦 (75)
豊田　隆 (75)
吉鹿　龍昭 (75)
山口　聡 (75)
西原　悦朗 (75)
安部　正 (75)
田中　照文 (76)
坂田　己好 (76)
石松　民三 (76)
河野　耕二 (76)

SECOND TENOR
菊竹　章剛 (73)
廣崎　公伸 (73)
森山　秀夫 (73)
中川　正裕 (73)
一期崎　平 (74)
砥上　雅壽 (75)
杉本　哲也 (75)
杉山　秀実 (75)
霜村　元吾 (75)
原田　保彦 (75)
黒岩　英臣 (76)
棚橋　勝則 (76)
西之園直信 (76)
進　洋右 (76)

BARITONE
中嶋　恒生 (73)
中村　潤 (73)
川添　敦由 (73)
松永　満 (73)
上田　恒夫 (74)
梶原　博司 (74)
松尾　俊成 (74)
藤井　政重 (75)
首藤　純 (75)
大庭　美和 (75)
樋口　一法 (75)
北島　豊実 (76)
髙嶋　裕二 (76)
朝山　澄彦 (76)
原田　昌幸 (76)

BASS
百衣　正典 (73)
江中　宣夫 (73)
川崎　栄三 (73)
小田　哲生 (73)
井手　輝実 (74)
三浦　孝幸 (74)
川上　継徳 (75)
増矢　勉 (75)
村田　正美 (76)
権藤　種茂 (76)
宮田利一郎 (76)
完戸　真人 (76)

創立54周年（1973年度：昭和47～48年）　Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

前年のメンバーから一挙に 20 名減少した我々の新体制、74 期生は5名と少数の為、75 期生を加えた混合編成で運営を開始した。この時期、グリーとして特筆すべきことは、副指揮者として完戸真人君（76期）を得たことであろう。彼は高校時代から合唱指揮法を福永陽一郎氏に学び、西南グリー入部時にはすでに学生指揮者として、卓越した技量を持っていた。彼の卒業後の活躍は、グリー OB 諸兄がよく周知の通りであるが、彼の指揮に触れることでグリーの音楽性はこれまで以上に充実していったと思う。また 72 期時から開始した外部講師によるボイス・トレーニングもこの期で 3 年目となり、48 年度も大久保昭男氏にボイストレーナーをお願いした。3年間にわたるトレーニングの成果として、理論に裏付けされた発声をほぼ全体に定着させることが出来たと思う。その結果、指揮者としては音楽面にのみ集中することができ、表現力も随分豊かになったと思った。

運営面では、下級生を役員に加えたことで意思決定に際し、おのずから下級生の考えも反映されやすくなり、同学年だけでの役員会とは違った柔軟なクラブ運営が可能となった。

財政面では会計業務を担当した三浦君（74 期）、マネジャー業務を担当した砥上君（75 期）らの努力により創立 50 周年行事以来、長年の課題であった負債の解消に目途をつけることが出来た。もっともそのために新体制発足早々「お座敷」に追われ、本格的な練習開始が遅れるという、指揮者にとっては笑えない時期もあった。

昭和 48 年5月 31 日には福岡市民会館での恒例の第6回福岡3大学合同演奏会に出演。6月には第5回西南音楽会や第28回福岡合唱連盟合唱祭に参加した。

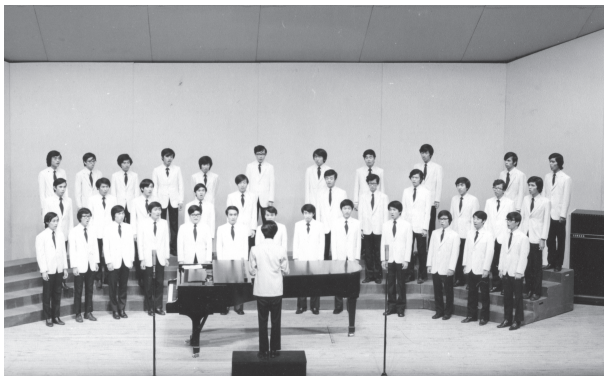
第 22 回定期演奏会は、客演指揮に福永陽一郎先生を迎え、11 月 27 日に福岡市民会館で開催した。第1ステージは2年生の学生副指揮者完戸君が「ロバートショウ・アルバム」を、第2ステージは学生指揮者の梶原博司（74 期）が男声合唱組曲「柳川風俗詩」を指揮、第3ステージは徳永和彦氏の指揮で賛助出演の西南シャントゥールが男声合唱組曲「七つの子供の歌」を演奏した。第4ステージと第5ステージは福永先生の指揮で「日本の笛」と福永先生編曲のブラームスの「愛の歌」を演奏。このステージはピアノ伴奏を宝木多加志氏と入江真知子氏のお二人にお願いした。この年の定演出演メンバーは 37 名であったが福永先生は「人数が少ないということは、意識の向上を、ほとんど強制的にもたらすし、ものごとの細部が徹底するということは、アンサンブル音楽にとって信じられないくらい大きな成果をもたらす。もっとも人数が少ないことは、いろいろツライことにも結びつく。西南のグリーメンが、そのツラサを楽しさに転回させるだけの精神力を持っていたことは、誉められてよい。ここでは真剣さと明朗さが同居している。」と話された。

多くの同期生が在籍した 73 期と 75 期の間にあって、これといった活動実績は残せなかったが、少ないながらも和気藹々とグリーを運営し、数々のスケジュールをこなすことができたのが 74 期の特色かと思う。

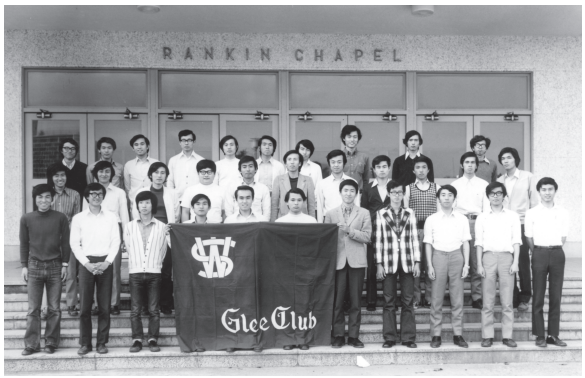
記述者・梶原　博司（74 期）



演奏旅行（長崎にて）

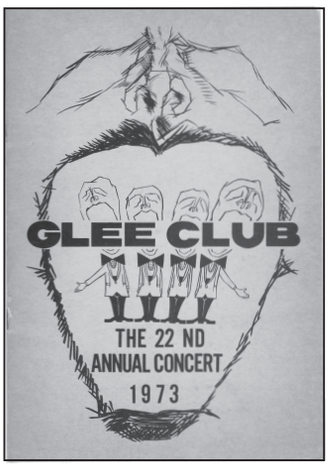


第 28 回合唱祭（1973.6.17）



ランキン・チャペルの前で

創立54周年　第22回定期演奏会　　1973年11月27日(火)　6:30p.m.　福岡市民会館



207×296mm

主催：西南学院大学
後援：全日本合唱連盟
　　福岡県連福岡支部
　　朝日新聞社
　　KBC 九州朝日放送
　　FM 福岡放送

Ⅰ　Robert Shaw Album　Alice Parker & Robert Shaw：編　指揮：完戸真人
- Aura Lee　・Green grow the rashers, O
- When you and I were young Maggie　・Marianina　・Vive L'Amour

Ⅱ　男声合唱組曲「柳河風俗詩」　北原白秋：詩　多田武彦：曲　指揮：梶原博司
- 柳河　・紺屋のおろく　・かきつばた　・梅雨の晴れ間

Ⅲ　賛助：西南シャントゥール「七つの子供の詩」　磯部　俶：曲　指揮：徳永和彦　piano：中島京子
- ヘリコプター　・いちぢく　・とっきゅうこだま
- うしがないた・大ずもう　・のぼろうのぼろう　・おさるのやきゅう

Ⅳ　男声合唱組曲「日本の笛」　北原白秋：詩　平井康三郎：曲　福永陽一郎：編　指揮：福永陽一郎　piano：宝木多加志
- 祭もどり　・かじめとたんぽぽ　・親船小船　・あの子この子
- びいでびいで　・関守　・追分　・夏の宵月　・山は雪かよ　・ちびつぐみ

Ⅴ　愛の歌　J. Bramus：曲　福永陽一郎：編　指揮：福永陽一郎　piano：宝木多加志・入江真知子
- Rede Mandchen, allzuliebes!　・Am Gesteine rauscht die Flut.
- O die Frauen, wie sie Wonne, Wonne tauen!　・Sieh; wie ist die Welle Klar.
- Nachtigall, sie singt so schon, wenn die Sterne funkeln.
- Ein kleiner, hubscher Vogel nahm deu Flug zum Garten hin.
- Am Donaustrande, da steht ein Haus.
- Nein, es ist nicht auszkommen mit den Leuten.
- Schlosser auf, und mache Schlosser.　・Zum Schluss

……九州で、一番古い歴史を誇る西南のグリークラブが、いま部員の数こそ減少しているけれど、……今年は、発声面の改善のために、思い切った手を打った。発声のことは、一度や二度の試みで目に見えた効果があらわれるものではないから、直ちに舞台面にあらわれているかどうかは明言できないにしても、数年あとの、それも近い日に、発声面で群を抜いた成績があらわれるに違いないので、今年のトライアウトは少々の無理が必要だったとしても、明日のための貴重な行動だったと言える日が来るだろう。

それに、人数が少ないということは、意識の向上を、ほとんど強制的にもたらすし、ものごとの細部が徹底するということは、アンサンブル音楽にとって、信じられないくらい大きな成果をもたらすのである。

もっとも、人数が少ないことは、いろいろツライことにも結びつく。西南のグリーメンが、そのツラさを楽しさに転回させるだけの精神力を持っていたことは、ほめられて良い。ここでは真剣さと明朗が同居している。……

福　永　陽一郎

部　長：L. B. Fielder

運　営　系
総　務：上田　恒夫
人　事：首藤　　純
M　G：砥上　雅壽
sub-MG：大庭　美和

会　計：三浦　孝幸
sub- 会計：吉鹿　龍昭
庶　務：霜村　元吾
sub- 庶務：山口　　聡
OB 担当：杉山　秀美

技　術　系
指揮者：梶原　博司
副指揮者：完戸　真人
PL-T1：豊田　　隆
PL-T2：一期崎　平
PL-B1：樋口　一法
PL-B2：井手　輝実

TOP TENOR
豊田　　隆 (75)
吉鹿　龍昭 (75)
山口　　聡 (75)
西原　悦朗 (75)
田中　照文 (76)
坂田　己好 (76)
石松　民三 (76)
河野　耕二 (76)
升田　伸二 (77)

SECOND TENOR
一期崎　平 (74)
杉本　哲也 (75)
霜村　元吾 (75)
杉山　秀実 (75)
砥上　雅壽 (75)
首藤　　純 (75)
棚橋　勝則 (76)
西之園直信 (76)
若林　　正 (77)
千代田高志 (77)

BARITONE
上田　恒夫 (74)
樋口　一法 (75)
大庭　美和 (75)
髙嶋　裕二 (76)
北島　豊実 (76)
朝山　澄彦 (76)
野中　浩一 (77)
井上　昌則 (77)

BASS
井手　輝実 (74)
三浦　孝幸 (74)
梶原　博司 (74)
川上　継徳 (75)
村田　正美 (76)
宮田利一郎 (76)
完戸　真人 (76)
吉岡平一郎 (77)
土井　能暢 (77)
本間　保彦 (77)

創立55周年（1974年度：昭和48～49年）　Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

第22回定期演奏会が終わり、我々75期生が主体となっての新体制が動き出した最初の演奏会は、12月21日の西南学院短大フラウェンコール第5回定演への賛助であった。

その4日後の25日には筑紫少女苑での慰問演奏会を行った。そこに勤務していた先輩からの声掛けがあり、前年から始めた演奏会である。慰問に際しいろいろと注意事項もあったが、グリーの合唱は少女達に素直に受け入れられ、後日感謝の手紙を貰った。

昭和49年の活動は1月15日の福岡市主催の「成人のつどい」出演で始まった。海援隊やケメの歌や西南の先輩である米倉斉加年氏の講演等があった。

我々75期生は数人の退部者はいたものの卒業時は13名であった。「アメリカ演奏旅行」につられて入部した者もいたが、残念ながら夢は果たせず、九州一周演奏旅行に終わった。当時の練習は週5日、練習時間も長く、まるで体育会の様相で、規律も厳しかった。

合宿の懐かしい思い出もある。干隈の「山の家」ではおばさんの♪～起きよ夜は明けぬ～♪という賛美歌で起こされ、食事は一汁一菜。樋口君のお祈りに続き「アーメン、いただきます！」と言うや否や、お替りや沢庵の奪い合いで賑やかであった。

6月は福岡三大学合同演奏会や西南音楽会、オール西南音楽会等に出演した。三大学の合同ステージでは石丸 寛先生がご自身編曲の「メキシコ民謡」を指揮された。練習時に「ノーリズム、ノーテンポ、ノーミュージック」と連呼された声を今でも鮮明に思い出す。

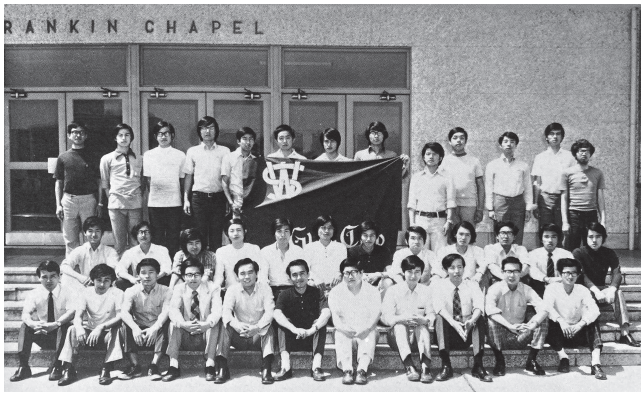
この年はグリーの創立55周年と言うことで、11月3日から佐賀・長崎・熊本・鹿児島・宮崎・小倉を回り、最後に11月15日（金）に福岡で記念演奏会を開催すべく企画した。この最終日が金曜日ということで、この日の日没から安息日に入る樋口君の出演の可否を巡り問題が発生したが、結局最後のステージには彼の姿は無かった。また、指揮者の福永陽一郎先生が最初の演奏旅行地の佐賀で倒れられた。第一ステージの途中で体が揺れだし、拍子をとるのがやっと、という状況であった。以降福岡での本番まで学生指揮者の完戸真人（76期）が見事に代役を務めた。

創立55周年記念第23回定期演奏会は当初の予定通り、昭和49年11月15日に福岡市民会館で開催した。ご病気の福永先生をステージに迎えることは叶わず、期待されたお客様には申し訳なかったが、第一ステージ、グノーの「聖チェチリァのための荘厳ミサ」を完戸真人が指揮、第2ステージの多田武彦作曲、男声合唱組曲「中勘助の詩から」を高嶋裕二（76期）が指揮、そして第3ステージ、中田喜直作曲、男声合唱組曲「海の構図」と最終ステージの清水脩作曲、男声合唱組曲「月光とピエロ」を完戸真人が振り、今回初めてピアノ伴奏をしていただいた久邇之宣先生にも助けていただいて、見事に記念演奏会を終えることができた。ハプニングが色々とあっただけに思い出多い演奏会となった。


久邇　之宣 氏

卒業も近づき、天神の平和樓で開かれた「追い出しコンパ」での後輩達の手荒いもてなしも懐かしい。同期のメンバーもそろそろ古希、温泉にでも一泊して回顧談に花を咲かせたいものである。

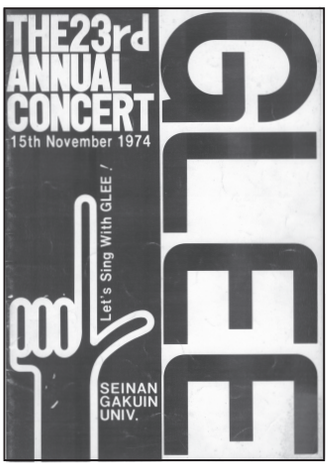
記述者・山口　聡（75期）



ランキン・チャペルの前で


第 23 回定期演奏会

創立55周年　第23回定期演奏会　　1974年11月15日(金)　6:30p.m.　福岡市民会館



208×297mm

Ⅰ　聖チェチリアのための荘厳ミサ　Charles Gounod：曲　福永陽一郎：編
・Kyrie　・Gloria　・Credo　指揮：完戸真人　piano：久邇之宣
・Sanctus　・Benedictus　・Agnus Dei

Ⅱ　男声合唱組曲「中勘助の詩から」　中　勘助：詩　多田武彦：曲
・絵日傘　・椿　・四十雀　・ほほじろの声　指揮：高嶋裕二
・かもめ　・ふり売り　・追羽根

Ⅲ　男声合唱組曲「海の構図」　小林純一：詩　中田喜直：曲　福永陽一郎：編
指揮：完戸真人　piano：久邇之宣
・海と蝶　・海女礼讃　・かもめの歌　・神話の巨人

Ⅳ　男声合唱組曲「月光とピエロ」　堀口大学：詩　清水　脩：曲
・月夜　・秋のピエロ　・ピエロ　・ピエロの嘆き　指揮：完戸真人
・月光とピエロとピエレットの唐草模様

＊福永陽一郎急病のため欠演、演奏指揮予定の第１・３・４ステージは完戸真人により演奏

主催：西南学院グリークラブ
後援：西部合唱連盟福岡県連福岡支部・朝日新聞社・KBC 九州朝日放送・FM 福岡放送

素晴らしい一夜を

今年の西南学院グリークラブの定期演奏会が、素晴らしい音楽にあふれるものなることを願わずにはいられない。と云うのも、練習をしていて、そういう、いい音楽が生まれそうな予感がするからである。

例年にくらべて、今年の定演のための準備は、ずいぶん慎重というか、周到になされたように思う。勿論、ひとつの計画の達成につきもののハプニングは、最後までつきまとったけれども、たとえば、福岡での本番の前に、アメリカでいうロード公演で経験を重ね、手直しをくりかえそうという計画について私が相談を受けたのは、一年半も前のことであった。

メンバーの質も近年になるほど最上で、去年から始めた発声のトレーニングも実を結び始めており、ピアニストも私と気のあった人を東京から招待して、いわば万全の態勢であり、例のないほど熱心な学生指揮者にひきいられている。これで私が私の本領を発揮しなかったら申しわけない。

で、私も、この定演では全力を尽くす覚悟である。今夜の演奏会が、聴いてくださる方々にとっても素晴らしい音楽の一夕になるように、心から祈って指揮台に立つ私である。

福　永　陽一郎

部　長：L. B. Fielder　　Voice Trainer：大久保昭男

運　営　系

総　務：首藤　　純
人　事：杉山　秀美
M　G：砥上　雅壽
演奏旅行MG：大庭　美和
sub-MG：石松　民三
会　計：吉鹿　龍昭
sub- 会計：宮田利一郎
庶　務：朝山　澄彦
sub- 庶務：西之園直信
企　画：川上　継徳
sub- 企画：棚橋　勝則
sub- 企画：河野　耕二
OB 担当：野中　浩一

技　術　系

指揮者：完戸　真人
副指揮者：髙嶋　裕二
PL-T1：山口　　聡
PL-T2：杉本　哲也
PL-B1：髙嶋　裕二
PL-B2：樋口　一法

TOP TENOR

豊田　　隆 (75)
吉鹿　龍昭 (75)
山口　　聡 (75)
西原　悦朗 (75)
田中　照文 (76)
坂田　己好 (76)
石松　民三 (76)
河野　耕二 (76)
升田　伸二 (77)
堤　　広光 (78)
豊福　純生 (78)
堀米　能文 (78)

SECOND TENOR

杉本　哲也 (75)
霜村　元吾 (75)
杉山　秀実 (75)
砥上　雅壽 (75)
首藤　　純 (75)
棚橋　勝則 (76)
西之園直信 (76)
若林　　正 (77)
村山　英治 (78)
宮山　倫明 (78)
山口　智之 (78)
横溝　和彦 (78)

BARITONE

藤井　政重 (75)
大庭　美和 (75)
髙嶋　裕二 (76)
朝山　澄彦 (76)
野中　浩一 (77)
坂元　　公 (77)
江中　幸夫 (78)
山下　俊裕 (78)
石野　義弘 (78)
橋本　　栄 (78)

BASS

江中　宣夫 (73)
川上　継徳 (75)
樋口　一法 (75)
宮田利一郎 (76)
完戸　真人 (76)
土井　能暢 (77)
本間　保彦 (77)
井上　昌則 (77)
島本　　直 (78)

創立56周年（1975年度：昭和49～50年）　Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

我々の期は、総務 朝山、人事 田中、マネージャー石松を中心に11人の仲間でスタートした。指揮は３年次から引き続き、完戸・髙嶋の二人指揮体制であった。完戸くんの存在は、我々にとって心強い限りであった。福永先生からは「今年は、一種の安定感を確保している。・・・」と評価を頂いた。

昭和49年12月は、西南女学院クールベルフィーユや西南学院短大フラウエンコールの定期演奏会に賛助、クリスマス前の22日には初めて筑紫少女苑訪問を行なった。どのような演奏会になるのかと緊張したが、童謡「叱られて」を歌った後の少女達の涙を見て、こちらが感動してしまった。

翌年３月は関学グリークラブとのジョイント・コンサート、関学グリーの現常任指揮者 広瀬康夫氏が学生指揮とピアノ伴奏をされていたように記憶している。関学グリーメンは西南グリーメンの家にそれぞれホームステイして交流を深めた。

新学期は恒例の新入部員勧誘、15人程の新人が入部し、やっと総勢40人余りの体制を確保できた。募集の謳い文句は「アメリカ演奏旅行に行こう！」であった。

５月には折から大濠公園で開催中の「福岡博覧会」でビートルズナンバーを演奏。福岡三大学合同演奏会では、完戸くんの指揮で「島よ」を初演、合同演奏は平島邦央氏の指揮で「枯木と太陽の歌」を演奏した。７月の西南音楽祭では、フラウエンコールとクールベルフィーユとの合同で「祝婚歌」や「仕事の歌」を混声で歌うなど意欲的に演奏活動に取り組んだ。

この年のメイン活動の一つとして、大久保昭男氏によるボイストレーニングを実施（10月23～25日）した。声を揃えること（ピッチ／音色／発音など）が課題であったが、3日間のレッスンで声が変わった。まさに「目から鱗」という思いであったが、年に一度のレッスンではその成果を維持していくことは難しかった。

この時代に特筆すべきは、完戸真人編曲による男声合唱版「島よ」の本邦初演である。すでに数多くの編曲を手がけていた彼が、当時、コンクールを始め多くの演奏会で演奏されていた「大中恩の『島よ』をグリーでやろう」と言い出し、早速編曲に取り掛かった。まさに彼の面目躍如たるところである。ピアノ伴奏の久邇之宣先生は新進の若手ピアニストで、先生の魂のこもったエネルギッシュでかつ繊細なピアノの音は今でも忘れられない。

第24回定期演奏会は、昭和50年11月19日に福岡市民会館で開催した。私の指揮でバードの「三声のミサ」、完戸くんの指揮で「島よ」とミュージカル「南太平洋」、そして福永陽一郎先生の指揮で「草野心平の詩から」と「NEGRO SPIRITUALS」という５ステージ構成で、福永先生は「こうしたレパートリーは、男声合唱にとって出発点であると同時に、終着駅でないかと考え始めている」と当日のプログラムに記されている。思い出に残る演奏会となった。

記述者　髙嶋　裕二（76期）

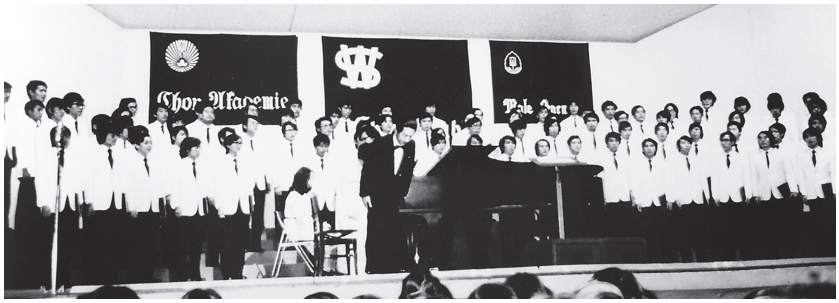

福永先生



福岡博・お祭り広場出場


NHK 総合 TV「こんばんは九州」出演

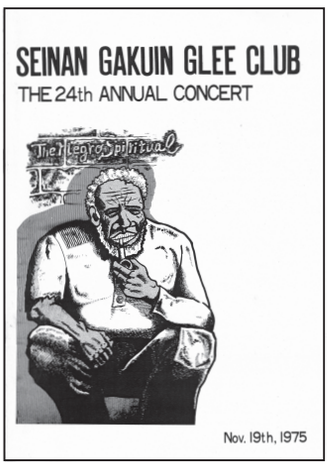

久邇先生



福岡男声三大学合同演奏会


完戸くん

創立 56周年　第 24回定期演奏会　　1975年 11月 19日(水)　7:00p.m.　福岡市民会館



182×256mm

主催：西南学院グリークラブ
後援：西部合唱連盟福岡県連福岡支部
　　朝日新聞社
　　KBC 九州朝日放送
　　FM 福岡放送

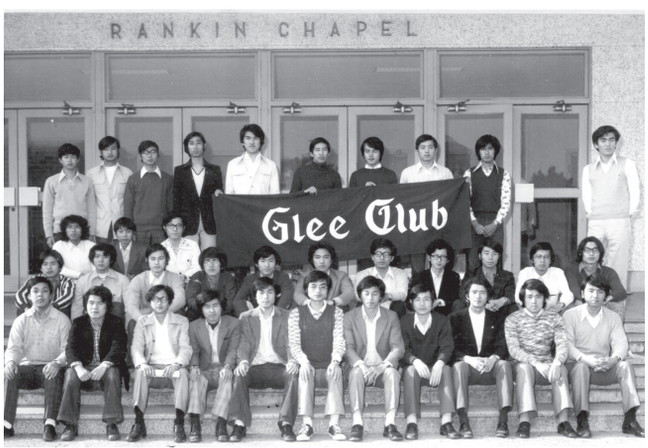
Ⅰ　三声のためのミサ　　William Byrd：曲　　指揮：高嶋裕二
・Kyrie　・Gloria　・Credo　・Sanctus　・Benedictus　・Agnus Dei

Ⅱ　男声合唱組曲「草野心平の詩から」　　草野心平：詩　多田武彦：曲
・石家荘にて　・天　・金魚　・雨　・さくら散る　　指揮：福永陽一郎

Ⅲ　男声合唱曲「島よ」　　伊藤海彦：詩　大中　恩：曲　完戸真人：編
指揮：完戸真人　piano：久邇之宣

Ⅳ　南太平洋（ブロードウェイ・ミュージカル）より
Oscar Hammarstein Ⅱ：詞　Richard Rodgers：曲　福永陽一郎：編
・Some Enchanted Evening　　指揮：完戸真人
・There is nothing like a dame　　piano：久邇之宣
・Younger than spring-time
・" ditez-moi "　・Happy talk　・Bali-Hai

Ⅴ　Negro Spirituals　　福永陽一郎：編　　指揮：福永陽一郎
・Jerry　・Sometimes I Feel　・Didn't My Lord Deliver Daniel
・My Lord, What a Mornin'　・In That Great Getting' Up Mornin'



ランキンチャペル前にて



第 24 回定期演奏会

部　長：J. W. Sheperd

運　営　系

総　務：朝山　澄彦
人　事：田中　照文
M　G：石松　民三
sub-MG：若林　　正
会　計：宮田利一郎
sub- 会計：坂元　　公
庶　務：坂田　己好
sub- 庶務：西之園直信
企　画：本間　保彦

技　術　系

指揮者：完戸　真人
副指揮者：髙嶋　裕二
PL-T1：河野　耕二
PL-T2：棚橋　勝則
PL-B1：野中　浩一
PL-B2：土井　能暢

TOP TENOR
田中　照文 (76)
坂田　己好 (76)
石松　民三 (76)
河野　耕二 (76)
升田　伸二 (77)
堤　　広光 (78)
豊福　純生 (78)
堀米　能文 (78)
寺園　公教 (79)
下田　知二 (79)
森尾　隆行 (79)

SECOND TENOR
棚橋　勝則 (76)
西之園直信 (76)
若林　　正 (77)
村山　英治 (78)
山口　智之 (78)
横溝　和彦 (78)
布野　良明 (79)
亀川　正則 (79)

BARITONE
髙嶋　裕二 (76)
野中　浩一 (77)
坂元　　公 (77)
江中　幸夫 (78)
山下　俊裕 (78)
石野　義弘 (78)
宮原　継男 (79)
古垣　純一 (79)
宮越　健雄 (79)
和田　宏幸 (79)
渡部　光晴 (79)

BASS
朝山　澄彦 (76)
完戸　真人 (76)
宮田利一郎 (76)
井上　昌則 (77)
土井　能暢 (77)
本間　保彦 (77)
橋本　　栄 (78)
坂本　則夫 (79)
山田　裕二 (79)
山脇　周作 (79)

創立57周年（1976年度：昭和50～51年）　Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

76期生の後を受け、我々６名の77期生は、少人数ながら先頭に立ってグリーを盛り上げていくべく、気持ちも新たにし、12月13日の西南女学院クールベルフィーユ定演賛助でスタートした。いくつかのクリスマスコンサートや、筑紫少女苑訪問演奏等で昭和50年は終わった。

昭和51年の初頭、今年の主要活動となる定期演奏会や福岡三大学合同演奏会の詳細を決めるべく、２月16日学生指揮者の野中とマネージャーは京都に福永陽一郎先生を訪ね、定演の曲目を相談し、北原白秋の詩集「思ひ出」にある「柳河風俗詩」と、現代アメリカ合唱界の第一人者ロバート・ショウの合唱曲に決定した。

京都からの帰途、岡山の中国短期大学に近藤安个先生を訪ね、福岡三大学合同演奏会での曲目を「岬の墓」と決め、帰福した。

２月26日から我々は早速、油山青年の家での合宿を行なった。東京からボイトレの大久保昭男先生を迎え、発声の基礎練習を徹底的に指導していただいた。

３月の関西学院グリークラブとのジョイントコンサートは、北村協一先生の指揮で「富士山」を合同演奏、成功裡に終了、両クラブ メンバーの交流は我々の自信を深める事となった。

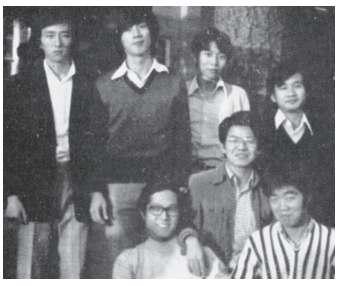
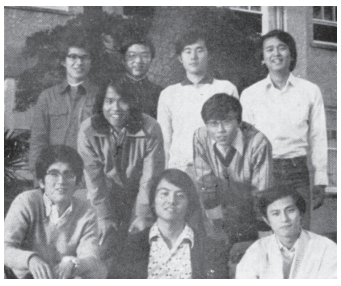
４月新学期となり、グリーも16名の新入部員を迎え、大いに活気づき、間近に控えた福岡三大学（西南・九大・福大）合同演奏会に向け日々の練習を重ねた。５月25日客演指揮者の近藤先生の熱意溢れる指揮にのせられ、成功裡に終わることができた。

定演も近くなり，福永先生やボイトレの佐々木實先生（九州芸工大）の熱心な指導を受け、**第25回定期演奏会**は11月18日に福岡市民会館で開催された。客演の福永陽一郎氏の指揮により、「ロバート・ショウ・アルバム」と男声合唱組曲「柳河風俗詩」、学生指揮者の野中浩一の指揮で「古典イタリア歌曲集」と「水のいのち」を瀬川啓子先生の素敵なピアノ伴奏で歌い、４年生は感激、感動の中でグリー生活最後の定演を終えた。

最後に、福永陽一郎先生が1976年４月の合宿の折、我々に話された中での印象的なことを記しておきたい。

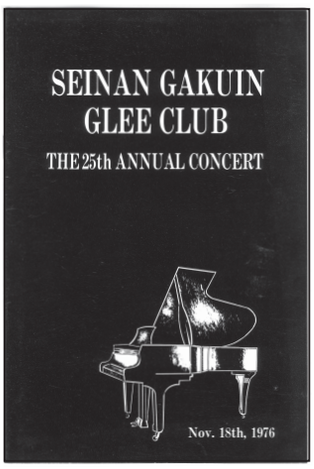
「音楽演奏に表現というものが最終目標として捉えられなければならないのは当然です。けれど音楽が音楽として成立する根本は声「音」というのが本当ですが、合唱の場合は「声」が美しく鳴っていること、音程が正しいこと、声部間のバランスがとれていることが原点です。それが出来ずに「表現」も何もあったものでは無いのです。勿論、声、音程、バランスを良質に保持する為にはテクニックが必要で、テクニックに関してはアマチュアには当然限界があります。その限界を表現意欲で補うことは、うまくいけば可能です。テクニックの限界と表現力のシーソーがアマの音楽の楽しみの素でしょう。指揮に関しても技術と音楽に対するセンスとシーソーです。練習でも今一度パート練習の重要さを考えてください。指揮者は美しいパートを求めます。初心者を拒まない大学合唱団では、「音程」「音取り」の不徹底は致命的です。今年は定演の僕のレパートリーも合唱の基本に戻そうと思います。綺麗で、美しく、迫力ある男声合唱という目標を僕も含めもう一度確かめよう」

記述者　野中　浩一（77期）



創立57周年　第25回定期演奏会　　1976年11月18日(木)　6:30p.m.　福岡市民会館



178×267mm

Ⅰ　古典イタリア歌曲集　　福永陽一郎：編
指揮：野中浩一　piano：瀬川啓子
・Amarilli, mia bella（C. Caccini）・Gia il sole dal Gange（A. Scarlatti）
・Ombra mai fu（G. F. Handel）・O del mio dolce ardor（C. W. Qluck）
・Chi vuol la zingarella（G. Paisiello）・Piacer d'amor（G. Martini）

Ⅱ　Robert Shaw Album　　指揮：福永陽一郎
・Aura Lee ・Wait For The Wagon ・Seeing Nellie Home
・Grandfather's Clock ・Li'l Liza Jane

Ⅲ　男声合唱組曲「柳河風俗詩」　　北原白秋：詩　多田武彦：曲
指揮：福永陽一郎
・柳河 ・紺屋のおろく ・かきつばた ・梅雨の晴れ間

Ⅳ　男声合唱組曲「水のいのち」　　高野喜久雄：詩　高田三郎：曲
指揮：野中浩一　piano：瀬川啓子
・雨 ・水たまり ・川 ・海 ・海よ

主催：西南学院グリークラブ
後援：福岡県合唱連盟福岡支部・朝日新聞社・KBC 九州朝日放送・FM 福岡放送

日本の合唱のレベルは、たしかに、目立って高くなっているのだろうが、どうも、やたらと技巧に走り、内容だ、思想だ、表現だと観念をもてあそび、逆の出かたをするときは、できもしない大曲の征服に力こぶを入れる傾向にあり、合唱の楽しさが、本来、人間の声のハーモニーであることを忘れているのではないかと心配である。

今年の西南グリーでは、よく整備された声をつかって、ゆたかな共鳴をつくりだすようバランスと調和のとれたハーモニーの、やわらかで素直な音楽の表出をねらってみた。

成功すれば、これこそ、次なる段階への出発点になることを期待している。

昭和５１年　秋

福 永 陽一郎

部　長：J. W. Sheperd

指揮者：野中　浩一
会　計：石野　義弘　　副指揮者：豊福　純生
総　務：村山　英治　　sub- 会計：和田　宏幸　　PL-T1：堀米　能文
人　事：橋本　　栄　　庶　務：下田　知二　　PL-T2：山口　智之
M　G：横溝　和彦　　庶　務：亀川　正則　　PL-B1：江中　幸夫
sub-MG：宮越　健雄　　企　画：坂本　則夫　　PL-B2：渡部　光晴

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
升田　伸二 (77)	山口　智之 (78)	野中　浩一 (77)	本間　保彦 (77)
豊福　純生 (78)	横溝　和彦 (78)	石野　義弘 (78)	土井　能暢 (77)
堀米　能文 (78)	村山　英治 (78)	山下　俊裕 (78)	井上　昌則 (77)
森尾　隆行 (79)	堤　　広光 (78)	江中　幸夫 (78)	橋本　　栄 (78)
下田　知二 (79)	布野　良明 (79)	宮越　健雄 (79)	山脇　周作 (79)
鬼頭　秀樹 (80)	亀川　正則 (79)	宮原　継男 (79)	渡部　光晴 (79)
古賀　秀幸 (80)	白土　典文 (80)	和田　宏幸 (79)	坂本　則夫 (79)
小坂　生穂 (80)	中村　信洋 (80)	奥平　　勉 (80)	岩﨑　嘉範 (80)
	木下　俊彦 (80)	石橋　義盛 (80)	伊徳　　諭 (80)
	松永　直之 (80)	川田　　稔 (80)	朔　　正毅 (80)
		谷野　　績 (80)	安達　次郎 (80)

創立58周年（1977年度：昭和51～52年）　Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

昭和51年11月、先輩からグリーを引き継ぎ、天神地下街でのクリスマスステージ等をこなし、その年の冬を乗り切ったが、部員は30人程という心細い体制で大いに不安を覚えた。

翌年３月の関西学院とのジョイントコンサートでは、あの圧倒的な声量に対抗するために、芸工大の佐々木實先生の御指導を仰ぎ、「沙羅」で男声の繊細さを表現した。演奏後、佐々木先生からの「日本画を見るようでした」との講評によって、今後の活動への自信を頂いた。

しかし、関学の迫力を目の当たりにし、やはり男声合唱の魅力はその幅広い声量にあることを痛感し、新入部員獲得に力を入れ、新年度には、どうやら50人程の陣容を整えた。新勧に際しては「グリーには海外演奏旅行もある」と、当時は希望（嘘ともいう）の言葉で勧誘したが、後年「嘘から出た実」にしてくれた後輩諸氏には感謝する。その後、期末試験の時期ではあったが、西南学院高校グリークラブの有志と西南音楽祭に出場し、将来のグリーメンの確保を期した。

６月には、その年から九産大グリーを加えた第10回福岡四大学合同演奏会。合同ステージ客演指揮者の北村協一先生から聞く、福永先生、大久保昭男先生（ヴォイストレーナー）との交友談はユーモア一杯の魅力あふれるもので、その時の構想≪大久保指揮、福永ソロ、北村ピア伴≫の実現を願ったものである。

昭和52年夏、定演のメインステージの選曲を悩んでいたとき、福永先生から「『ゆうやけの歌』をやる。作詩者は君らの先輩（川崎洋）で、これを西南グリーがやらないでどうするの！」と厳命された。前年の合唱コンクールで崇徳高校が委嘱し金賞を取った曲である。ピアノ伴奏は久邇之宜先生。その日から学生指揮者とパートリーダーの苦悩が始まった。正直いって、我々には荷が重く、何とか福永先生の第１回練習にも間に合わせたが、また新たな苦悩が生じた。久邇先生の「学指揮のステージは何をやるの？　『沙羅』？　ピア伴決まってないの？　じゃ、僕がやる。」との思いがけない申し出に、マネージャーY君の脳裏に、福永先生と久邇先生への謝礼費用が頭をよぎったのだ。幸いにも両先生の事務所が「コミコミでOK」と貧乏学生に情けをくれた。ありがとうございました。

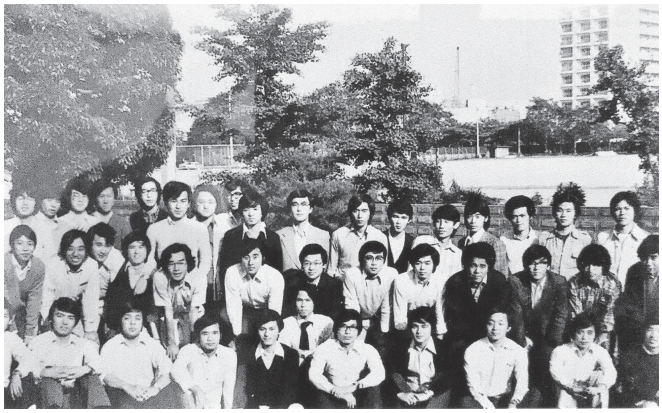
52年秋には「西南よ　基督に忠實なれ」の暖炉の傍らで合宿。グリーメンでなければ、建学の精神を刻んだこの暖炉を実際に見ることもなかったに違いない。グリーの合宿を心から喜んでくれ、目覚まし時計代わりに素晴らしい歌声で起こしてくれたおばさん、お世話になりました。就職活動のため、４年生は自由参加としたが、夜間に駆けつけ練習に参加し、４年生ミーティングと称して隠れて煙草を吸うのを黙認してくれた下級生にも感謝しています。

12月の**第26回定期演奏会**の前には３年ぶりの演奏旅行を行い、「Glee Club Favorites」「沙羅」「Sea Chanties」「ゆうやけの歌」を引っ提げて宇部と戸畑を回った。海外には程遠いが、演奏旅行の段取りや、駅前でのストームも後輩に引き継がねばならない大事な伝統だ。演奏の感想を記したアンケートの中に「久し振りの西南グリーの演奏を心待ちにしていた」等の言葉があり、先輩が築いた伝統を実感したものだ。この演奏旅行では下関出身のF君に事前準備のため地元を回ってもらい、随分苦労してもらった。

定演につきものの「さよならね」で流す４年生の涙。ベースのH君も感涙を流す予定であったが、感激に浸っている４年生の顔を見渡した学指揮がニヤリと笑い、「泣き損ねた」と卒業後も悔やんでいた。

最後の定演時には９名となった78期生であったが、学指揮のT、トップのH、バリトンのYが留年し、セカンドのYが筑豊で、バリトンのEが小野田で地元男声合唱団のリーダーとして、途中退部したTが八女の混声合唱団で、現在（H24年）も活躍中であることを申し添えておく。　　記述者　豊福　純生（78期）





第２６回定期演奏会

創立58周年　第26回定期演奏会　　1977年12月7日(水)　6:30p.m.　電気ホール



190×268mm

Ⅰ　GLEE CLUB FAVORITES　　指揮：福永陽一郎
・Gaudeamus　・Whiffeenpoof Song　・De Animals A-Comin'
・Old Tom Wilson　・Shall I, wasting in despair ?
・Old Man Noah　・Twilight

Ⅱ　男声合唱組曲「沙羅」　清水重道：詩　信時　潔：曲　福永陽一郎：編
指揮：豊福純生　piano：久邇之宜
・丹沢　・あずまやの　・北秋の　・沙羅
・鴉　・行々子　・占ふと　・ゆめ

Ⅲ　SEA CHANTIES　Celius Dougherty：編　　指揮：福永陽一郎
・Shenandoah　・Mobile Bay　・Blow ye Winds
・Across the Western Ocean　・Rio Grande

Ⅳ　男声合唱とピアノのための「ゆうやけの歌」　川崎　洋：詩　湯山　昭：曲
指揮：福永陽一郎　piano：久邇之宜

主催：西南学院グリークラブ
後援：福岡県合唱連盟福岡支部・朝日新聞社・KBC 九州朝日放送・FM 福岡放送

今年度の前半、西南のグリークラブは派手でない地道な活動をしてきたのではないかと思う。実力低下を云々する噂も聞こえて来たりした。

しかし、秋になって練習に来てみるとどうだろう。例年よりもしっかりした譜読み音取りで定演への準備が進行していた。安心したり嬉しかったりである。最初からすっ飛ばす勢いの年ではなかったかも知れないが、今年は、前々年、前年より一層、内容の充実したコンサートになるのではないかと期待しながら練習できるのが、何よりも楽しい。去年から始めた”男声合唱の魅力の基点の発見”を路線として、成功した会にしたいものだ。

それに、昭和 20 年代のはじめ頃、共に西南グリーに在籍していた川崎洋さんの詩による「ゆうやけの歌」がやれるのも嬉しい。川崎さんも喜んでくれるに違いない。(11 月 21 日)

福 永 陽一郎

部　長：J. W. Sheperd

運　営　系
総　務：宮越　健雄
人　事：渡部　光晴
M　G：布野　良明
sub-MG：岩﨑　嘉範
会　計：坂本　則夫
sub- 会計：松永　直之
庶　務：谷野　績
sub- 庶務：吉村　龍彦
sub- 庶務：川田　稔
OB 担当：伊徳　諭

技　術　系
指揮者：豊福　純生
PL-T1：下田　知二
PL-T2：亀川　正則
PL-B1：宮原　継男
PL-B2：磯貝　豊

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
豊福　純生 (78)	山口　智之 (78)	江中　幸夫 (78)	橋本　栄 (78)
堀米　能文 (78)	横溝　和彦 (78)	山下　俊裕 (78)	渡部　光晴 (79)
村山　英治 (78)	亀川　正則 (79)	石野　義弘 (78)	坂本　則夫 (79)
下田　知二 (79)	布野　良明 (79)	宮越　健雄 (79)	岩﨑　嘉範 (80)
吉村　龍彦 (80)	松永　直之 (80)	宮原　継男 (79)	磯貝　豊 (80)
木下　俊彦 (80)	白土　典文 (80)	谷野　績 (80)	安達　次郎 (80)
加藤　聡 (81)	中村　信洋 (80)	川田　稔 (80)	朔　正毅 (80)
岡田　和夫 (81)	御厨　貞治 (81)	奥平　勉 (80)	友永　史朗 (81)
川崎　正一 (81)	中野　裕之 (81)	伊徳　諭 (80)	野間　利博 (81)
	竹林　謙一 (81)	村上　和博 (81)	武谷　昌次 (81)
	野口　政行 (81)	白田　明博 (81)	
	古賀　章 (81)	金子　弘 (81)	
	古野　正善 (81)	松岡比呂史 (81)	
		養父　英輔 (81)	

できごと

1978年　**ライオンズ所沢移転**　「西鉄」、「太平洋クラブ」、「クラウンライター」と名称は変わっても福岡の平和台球場を本拠地としていたプロ野球パシフィックリーグの「ライオンズ」球団の経営を西武グループが引継ぎ本拠地を埼玉県所沢市に移転。平和台球場は1997年に老朽化や歴史公園整備を理由に閉鎖。

1978年　**福岡大渇水**　5月～翌1979年3月の287日間にわたって福岡市で時間指定断水による給水制限が行われた。市民はバケツやポリタンクに貯めた水を利用、ほとんどの小中学校でプールでの授業が中止となり、学校給食も大きな制限を受けた。また市内の大学では臨時休校などの措置が取られた。

1979年　**ウォークマン発売**　ソニーがポータブルオーディオプレイヤー「ウォークマン」を発売。音楽を聴きながら町を歩くことが社会現象に。

1979年　**福岡郵便貯金ホールオープン**　福岡市中央区薬院の浄水通り沿いに福岡郵便貯金ホール（後のメルパルクホール福岡）がオープン。西南グリーは1979年の創立60周年記念定期演奏会より、1989年の創立70周年で福岡サンパレス（1981年オープン）に会場を移すまで10年間定期演奏会で毎年使用。1970年代は、1971年に福岡市立少年科学文化会館（2016年閉館）、1973年にはももちパレス（福岡県立ももち文化センター）など西南グリーがよく演奏会で使用していたホールもオープン。

1979年　**第二次オイルショック**　イラン革命に端を発する第二次オイルショック発生。企業は新入社員の採用を手控え当時の学生の就職活動に深刻な影響を与えた。

1979年　**「ジャパン・アズ・ナンバーワン」発売**　社会学者エズラ・ヴォーゲルによる、戦後の日本経済の高度経済成長の要因を分析し、日本的経営を高く評価した著書「ジャパン・アズ・ナンバーワン」が発売され、70万部を超えるベストセラーに。

1980年　**オリンピック・ボイコット**　当時のソ連のモスクワでオリンピック開催されたが、ソ連のアフガニスタン侵攻のため日本や米国、西ドイツなど50カ国近くがボイコット。

1981年　**福岡市地下鉄開業**　福岡市地下鉄が室見 - 天神間で開業（7月）。同年には西新岩田屋（2003年閉店）が「西新エルモール」として開店。福岡市地下鉄は1983年には国鉄筑肥線と相互直通運転開始。筑肥線、博多駅 - 姪浜駅間 を廃止。

1981年　**石丸寛氏ゴールドブレンド CM出演**　「違いがわかる男の、ゴールドブレンド」のキャッチコピーとともに各界著名人を起用しているネスカフェゴールドブレンドの CMに指揮者の石丸寛氏出演。

1982年　**日航機羽田沖墜落事故**　福岡空港発、羽田（東京国際）空港行の日航機が羽田沖で墜落、乗員乗客24人が死亡、149人が負傷。事故原因は機長が逆噴射装置を作動させたことであった。

1982年　**世界初の音楽 CDソフト発売**　CBS・ソニー・EPIC・ソニー・日本コロムビアが世界初の音楽 CDソフトを発売（10月）。1986年、販売枚数ベースで CDが LPを追い抜く。

1982年　**百道浜埋め立て着工**　福岡市の早良区百道、中央区地行にまたがる百道浜の埋め立て着工。「岸を洗う紺碧の波」は遠くに。

1982年　**テレホンカード発売**　公衆電話で使用できるプリペイドカード「テレホンカード（テレカ）」が日本電信電話公社（電電公社）から発売される（12月）。小銭が不要で、1度数（10円）単位で引き落とされるため無駄がなく、長時間通話時にも硬貨を投入し続ける必要がなく広く利用されたが、1990年代の終わりには携帯電話の普及に伴い公衆電話の利用やテレホンカードの必要性が減少していった。

1983年　**青木功日本人初の PGAツアー優勝**　プロゴルファーの青木功がハワイアン・オープンで、日本人初の米国 PGAツアー優勝（2月）。

1983年　**「おしん」放送開始**　日本以外にも68の国・地域で放送され日本のみならず世界的に人気となった NHK連続テレビ小説「おしん」が放送開始（4月）。

できごと

1984年　**ユニクロ1号店オープン**　日本におけるファストファッションの代表的存在ユニクロの1号店が広島市にオープン（6月）。

1985年　**「8時だョ!全員集合」終了**　1969年から始まったザ・ドリフターズの冠番組「8時だョ!全員集合」が終了。最盛期には40% - 50%の視聴率を稼いだ。デューク・エイセスの「いい湯だな」の替え歌「ドリフのビバノン音頭」やヒゲダンス、加藤茶の「チョットだけョ」、志村けんの「カラスの勝手でしょ」で人気。日本 PTA全国協議会が「低俗テレビ番組を野放しにできない」として放送中止をテレビ局とスポンサーに求めたことも。

1985年　**柔道の山下泰裕引退**　1984年のロサンゼルスオリンピック金メダリストの山下泰裕選手がこの年の全日本柔道選手権大会で9連覇を達成し203連勝のまま現役を引退（6月）。

1985年　**日本航空123便墜落事故**　羽田（東京国際）空港発、伊丹（大阪国際）空港行きの日航機が操縦不能に陥り迷走飛行の末、群馬県多野郡上野村の高天原山の尾根（通称御巣鷹の尾根）に墜落。乗客乗員524人のうち死亡者数は520人、生存者は4人。死亡者の中には歌手の坂本九さんや多くの会社役員が含まれていた。

1985年　**G5プラザ合意**　アメリカの国際収支の大幅な赤字と累積した財政赤字（双子の赤字）、および金融緩和による金利低下でドル危機の再発を恐れた先進国が自由貿易を守るため、協調的なドル安路線を図ることで合意（9月）。実質的には円高ドル安に誘導する内容。発表翌日の24時間だけで、ドル円レートは1ドル235円から約20円下落した。1年後には150円台で取引されるようになった。日本でのその後のバブル景気の原因のひとつになる。

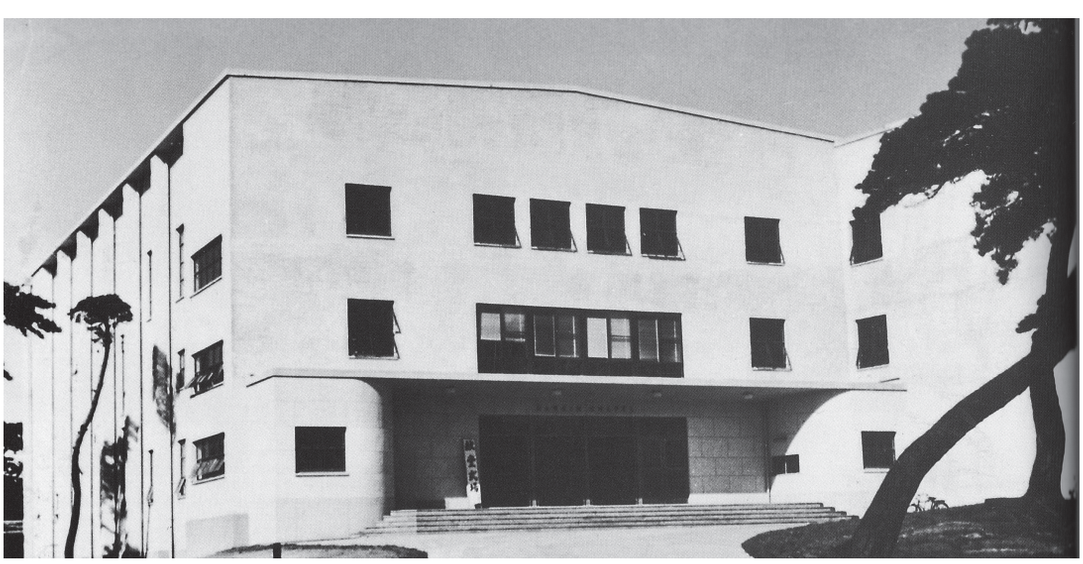
1986年　**チェルノブイリ原子力発電所事故発生**　旧ソ連のウクライナ、チェルノブイリ原子力発電所で国際原子力事象評価尺度（INES）では深刻な事故を示すレベル7に分類される事故発生（4月）。

1986年　**バブル景気**　1985年の「プラザ合意」が発端とされ、日本において株価の急上昇、不動産価格の上昇、個人資産なども増大と好景気が1991年まで続く。1988年には日産が高級車シーマを発売、大ヒット。シーマ現象と呼ばれる言葉も生まれた。安田火災がゴッホの「ひまわり」を53億円で落札（1997年）も。
「山手線内側の土地価格で、米国全土が買える」という試算もあった。

1987年　**国鉄分割民営化**　巨額の赤字などに悩む日本国有鉄道（国鉄）を「JR」として、6つの地域別の「旅客鉄道会社」と1つの「貨物鉄道会社」などに分割し、民営化へ（4月）。

1987年　**ブラックマンデー**　米国の財政赤字と貿易赤字の「双子の赤字」によるドル安に伴うインフレ懸念を原因とするといわれるニューヨーク株式市場の大暴落に端を発する世界の株式市場大暴落。1987年10月19日の月曜日に起こった。

1988年　**ホークス福岡へ**　南海電鉄が球団をダイエーに売却。ダイエーは本拠地を福岡市の平和台野球場に移転。球団名及び会社名も福岡ダイエーホークスに。



ランキンチャペル献堂式日撮影

創立59周年（1978年度：昭和52～53年）　Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

振り返ってみますと、我々79期は文字通り70年代の締めくくりであったとともに80年代と言う新しい時代に向けての橋渡しの役割だったような気がします。その新しい時代の象徴だったのがグリークラブ創立６０周年記念でのアメリカ演奏旅行でした。

クラブ創立周年代で見れば、創立56周年から59周年は記念行事とは無縁の年代でした。

79期の新入部員は初めて聴く男声合唱の魅力に感動したか、それとも60周年記念の演奏旅行でアメリカに行けると言う言葉につられたか？で、15～16名いました。(もっとも後になってアメリカ演奏旅行は卒業後のため行けない。と気づくのでした。)この当時の学生の気質としては規律の厳しい部活を敬遠する傾向が強くなっていて部活には入らず、愛好会や同好会などの気の合う仲間同士の集まりを好むようになっていました。そのため一旦グリークラブに入ったものの次第に去っていく者が増え、さらに社会的な不景気による就職難で就活に苦労される4年生の姿を見て部活をやっている場合では無く学業に専念したいと辞める者が相次ぎ、結局最後まで残ったのは7名でした。当時は辞めたいと言い出したメンバーを引き留めるため下宿に押しかけ夜通し話し込んだことが何度もありました。しかし最後まで残った7名のメンバーとは卒業後も定期的に交流したりしていました。また今でも連絡を取り合うなどかけがえのない友人を得られた事に感謝しています。

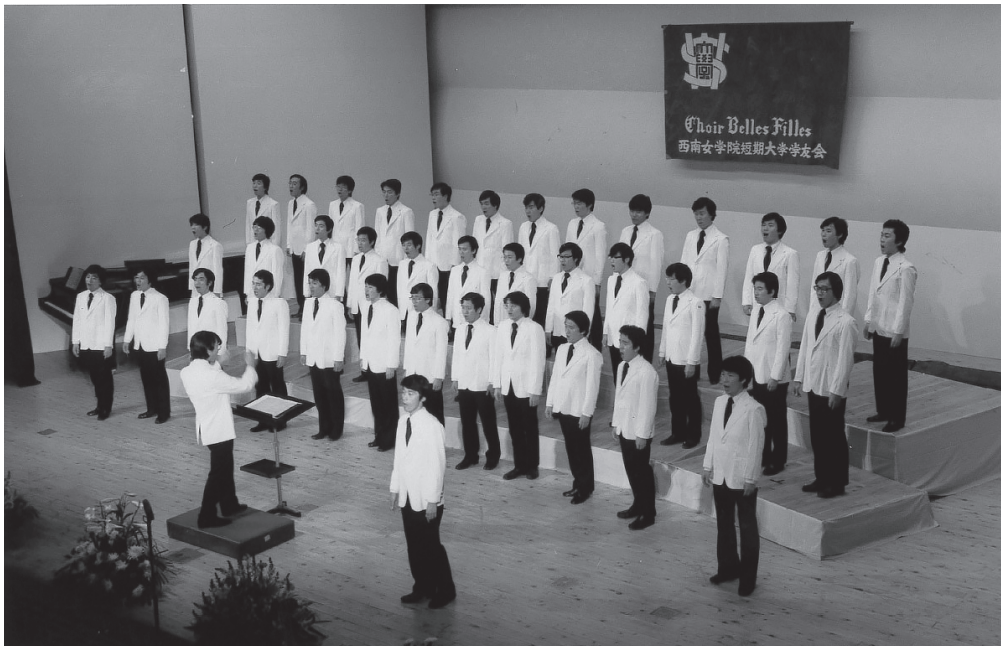
新入当時の練習状況といえばほとんどの部員は合唱経験が無かったため、発声はおろかブレス(腹式呼吸)すらまともに出来ず先輩たちを悩ませることばかりだったと思います。また合宿での体力強化や腹筋体操など「学文会系の部活だがまるで体育会系のサークルのようだ。」と言っていたものです。それでも何とか先輩方に追いつこうと西南会館の6階にあった部室に足しげく通いスーベニールやパート練習をその場にいた先輩に教えていただいていました。学生食堂に同期のメンバーと集まっていると4年生が来て楽典を教えていただいたりもしました。

在籍４年間の定期演奏会のすべての客演指揮者は福永陽一郎先生と恵まれていました。厳しくはありましたがこの上ない貴重な体験だったと思います。特に音程はもちろん、表現さらに表情についてはみっちり指導していただきました。

我々が2年生になった時、80期の新入部員が入ってくるのですが従来とは全く違った感性や価値観を持った世代だなと感じました。のちにいわゆる新人類と言われた世代でした。この頃から79期と80期との間には大きな隔たりがあるような感覚がありました。そして我々が３年生４年生となり新入部員が入るたびにその感覚はさらに大きくなっていくのでした。

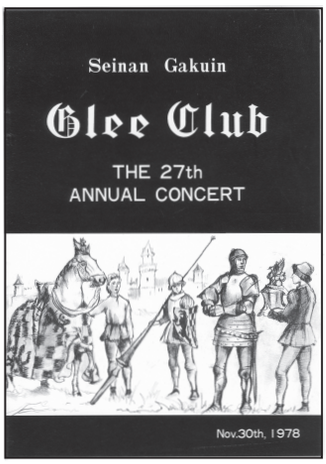
そのような新たな時代への変遷を感じつつ80年代へとバトンをつないで行くのでした。

記述者　宮越　健雄(79期)



西南女学院のクールベルフィーユの定期演奏会に賛助出演

創立59周年　第27回定期演奏会　　1978年11月30日(木)　6:30p.m.　福岡市民会館



182×259mm

Ⅰ　EIN DEUTSCHES MESSE　シューベルト：曲　　指揮：福永陽一郎
- zum INTROITUS　・zum GLORIA　・zum CREDO
- zum OFFERTORIUM　・zum SANCTUS　・nach der COMMUNIO
- zum AGNUS DEI　・SCHLUSSGESANG

Ⅱ　男声合唱組曲「雪と花火」　北原白秋：詩　多田武彦：曲　　指揮：宮原継男
- 片恋　・彼岸花　・芥子の葉　・花火

Ⅲ　musical "Man of La Mancha"
Joe Darion：詞　Mitch Leigh：曲　福永陽一郎：編
指揮：宮原継男　piano：竹内理子　パーカッション：垣替宏幸・西本俊彦
- Man of La Mancha　・Dulcinea　・Little Bird Little Bird
- Golden Helmet of Manbrino　・The Impossible Dream

Ⅳ　日本民謡　　指揮：福永陽一郎
- そうらん節　・南部牛追い唄　・最上川舟唄
- 五木の子守唄　・おてもやん

主催：西南学院グリークラブ
後援：福岡県合唱連盟福岡支部・朝日新聞社・KBC 九州朝日放送・FM 福岡放送

今年の西南学院グリークラブの特徴は、嬉しいことに、著しく増した安定感である。練習の時に、よほど疲れた時でなければ音が下がらなくなった。何だそんなことない、と言われるかも知れないが、現今の大学合唱団は、ヘンな難曲はこなすけれども、純正なハーモニーを維持することが出来ないのが多い。技術の持ち方が歪になり、基礎的なことが忘れられる傾向にある。

西南グリーでは、ここ数年、男声合唱の魅力の原点に戻ろうとして、意図的にレパートリーを選んできた。外面はかなり地味になったけれども、合唱の基本的な意味を、実感としてつかんできた様子で、ここを立脚点として、片寄らないように注意しながら技術を高めてゆかなければならない。かつての追いつけ追い越せの背伸びが、何かを間違えさせた。東京や関西の大学合唱団は、いつまでもその間違いの結果から抜け出せなくて苦しんでいる。……。

福　永　陽一郎

部　長：古川　暢朗

運　営　系		技　術　系	アメリカ演奏旅行実行委員
総　務：吉村　龍彦	会　計：奥平　　勉	指揮者：宮原　継男	委員長：伊徳　　諭
人　事：谷野　　績	sub- 会計：川崎　正一	PL-T1：木下　俊彦	M　G：白土　典文
M　G：岩﨑　嘉範	庶　務：松岡比呂史	PL-T2：中村　信洋	sub-MG：古賀　　章
sub-MG：野間　利博	sub- 庶務：竹林　謙一	PL-B1：川田　　稔	会　計：安達　次郎
	OB 担当：白田　明博	PL-B2：朔　　正毅	sub- 会計：岡田　和夫

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
下田　知二 (79)	亀川　正則 (79)	宮越　健雄 (79)	坂本　則夫 (79)
木下　俊彦 (80)	布野　良明 (79)	宮原　継男 (79)	渡部　光晴 (79)
吉村　龍彦 (80)	白土　典文 (80)	伊徳　　諭 (80)	岩﨑　嘉範 (80)
岡田　和夫 (81)	中村　信洋 (80)	奥平　　勉 (80)	安達　次郎 (80)
加藤　　聡 (81)	竹林　謙一 (81)	谷野　　績 (80)	磯貝　　豊 (80)
川崎　正一 (81)	御厨　貞治 (81)	川田　　稔 (80)	朔　　正毅 (80)
江口　也文 (82)	野口　政行 (81)	白田　明博 (81)	野間　利博 (81)
日高　　隆 (82)	古野　正善 (81)	松岡比呂史 (81)	武谷　昌次 (81)
渡辺　秀樹 (82)	古賀　　章 (81)	村上　和博 (81)	中野　裕之 (81)
	米岡　　悟 (82)	友永　史朗 (81)	大中　　豊 (82)
	田中幸太郎 (82)	上田　信孝 (82)	鬼塚　　徹 (82)
		川原　好治 (82)	上島　一高 (82)
		坂田　和英 (82)	副島陽一郎 (82)
		佐々木克己 (82)	
		百済　公支 (82)	

創立 60 周年（1979 年度：昭和 53 ～ 54 年）Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

昭和53年12月9日戸畑での西南女学院クールベルフィーユの第11回定期演奏会賛助が我々新体制のスタート、学生指揮者 磯貝 豊君（80期）のデビューでもあった。例年のように12月は忙しく、16日は西南マンドリン・ギター・アンサンブルの定演に有志で賛助、17日は筑紫少女苑ボランティア訪問と続いた。

明けて昭和54年2月18日から3月5日にかけて、西南グリー創立６０周年を記念し、念願の**第1回アメリカ演奏旅行**を行なった。サンフランシスコからホノルルまで、3つの姉妹校訪問コンサートやチャペル出演等多くのスケジュールをこなし、日米親善の一役を担った。

6月1日には第12回福岡男声四大学合同演奏会、グリーは「岬の墓」を佐々木實氏の指揮で歌う。これは福岡男声四大学が東西四連のように成長していくよう、近い将来各大学の単独ステージを客演指揮者に振って戴ける様にと、学生指揮者の磯貝君が発案し実現したもの。合同演奏は北村協一氏の指揮で「月光とピエロ」を演奏。

6月は3日に筑紫高校文化祭、10日は合唱祭、13日は西南音楽祭とスケジュールが続いた。

西南グリーとしては珍しい横浜国大グリーとのジョイントを7月13日に開催したが、４年生の殆どが就活のため不参加。当時は入社試験が夏休み前後に行なわれ、教職の教育実習もこの時期に重なっていた為で、内定が出ると順次グリーに戻り、定演に向け練習に励んだ。

11月9日、大学祭「第２回音楽の夕べ」出演。これは吉村龍彦君（80期）が大学の音系サークルに呼びかけ前年から始まったものである。

創立60周年記念第28回定期演奏会は12月８日、この年に完成した福岡郵便貯金ホールで開催した。「１. 黒人霊歌」「２. ロックオペラ：ジーザス・クライスト・スーパースター」「３. カンツォーネ・アルバム（西南シャントゥール）」「４. 雪明りの路」「５. 月光とピエロ（合同）」のプログラム構成であった。当初、学生指揮者の磯貝君が「ジーザス・・」よりもロックミュージカル「ヘアー」を、と福永先生に提案、嘆願したが、「西南はキリスト教の学校だから、「ジーザス・・」をやろう！」と言われ決まったとか。二期会の西内 玲さんをマグダラのマリア役に迎え、ピアノとバンドを加え、いつもは直立不動のグリーメンが、ダンスを含めた演技に挑戦し、歌う者、聴く者、共々感動のステージとなった。

現役のみでの最終ステージ「雪明りの路」は、定演の二日程前、本当に素晴らしい最高の仕上がりを見せていたにも拘らず、本番では最高の演奏とならず残念な思いをした。本番当日、福永先生は「ジーザス・・」のステリハを何度も何度も繰り返され「ステリハを、気を抜いてやるな！」と言われて、目一杯やった為、本番の前半ステージで体力も声も出し尽くした我々は、「雪明りの路」で最高の演奏をするには、もはや体力も声も限界を超えていたのであろう。

ＯＢとの合同曲「月光とピエロ」は、100人を超える大合唱で、男声合唱を満喫することが出来た。定演の打ち上げ後、４年生だけで集まり大反省会となったのも、いい思い出である。

この60周年記念演奏会の模様は、ＬＰレコードとして残されている。

記述者　朔　正毅（80期）



第28回定期演奏会 “Jesus Christ Superstar”



アメリカ演奏旅行、ベーラー大学にて



アメリカ演奏旅行、ゴールデンゲートブリッジにて

創立60周年　第28回定期演奏会　1979年12月8日(土)　6:30p.m.　福岡郵便貯金ホール



210×297mm

主催：西南学院グリークラブ
　　西南学院グリークラブ OB 会
後援：福岡県合唱連盟福岡支部
　　朝日新聞社・FM 福岡放送
　　KBC 九州朝日放送

Ⅰ　Negro Sprituals　福永陽一郎：編　指揮：磯貝　豊

・Go down Moses　・Deep river　・Soon a will be done
・Steal away to Jesus　・There is a balm in Gilead
・Ain'-a that a good news

Ⅱ　Rock Opera " Jesus Christ Superstar "

ティム・ライス：詞　A. L. ウェバー：曲 福永陽一郎 : 編
指揮：福永陽一郎　piano：吉冨淳子　mezo-sop.：西内　玲
band: 西南フォークソング研究会、振付 : 吉本正子、演出 : 鶴原太郎

・序曲　・Heaven on their minds　・Everything's allright
・Hosanna　・I don't know how to love Him　・Gethsemane
・King Herod's song　・Superstar　・ヨハネ伝第 19 章 41 節

Ⅲ　(OBステージ) カンツォーネ・アルバム　内海敬三：編
指揮：内海敬三　piano：井上良子

・マンマ　・帰れソレントへ　・ラ・バンダ　・海に来たれ　・カタリ・カタリ

Ⅳ　男声合唱組曲「雪明りの路」　伊藤　整：詩　多田武彦：曲　指揮：福永陽一郎

・春を待つ　・梅ちゃん　・月夜を歩く
・白い障子　・夜まわり　・雪夜

Ⅴ　(合同ステージ)　男声合唱組曲「月光とピエロ」　堀口大學：詩　清水　脩：曲　指揮：福永陽一郎

・月夜　・秋のピエロ　・ピエロ　・ピエロの嘆き
・月光とピエロとピエレットの唐草模様

部　長：古川　暢朗

運　営　系

総　務：竹林　謙一
人　事：古野　正善
M　G：野間　利博
sub-MG：中野　裕之
sub-MG：渡辺　秀樹

会　計：古賀　章
sub- 会計：副島陽一郎
庶　務：大中　豊
sub- 庶務：上田　信孝
sub- 庶務：川原　好治
OB 担当：坂田　和英
広　告：佐々木克己
大道具：鬼塚　徹

技　術　系

指揮者：磯貝　豊
副指揮者：白田　明博
PL-T1：川崎　正一
PL-T2：野口　政行
PL-B1：村上　和博
PL-B2：武谷　昌次

60 周年記念誌
編集委員

松岡比呂史
江口　也文
百済　公支

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
木下　俊彦 (80)	中村　信洋 (80)	谷野　績 (80)	岩﨑　嘉範 (80)
吉村　龍彦 (80)	白土　典文 (80)	川田　稔 (80)	安達　次郎 (80)
岡田　和夫 (81)	伊徳　諭 (80)	奥平　勉 (80)	磯貝　豊 (80)
川崎　正一 (81)	竹林　謙一 (81)	村上　和博 (81)	朔　正毅 (80)
江口　也文 (82)	御厨　貞治 (81)	友永　史朗 (81)	中野　裕之 (81)
日高　隆 (82)	古野　正善 (81)	白田　明博 (81)	野間　利博 (81)
渡辺　秀樹 (82)	古賀　章 (81)	松岡比呂史 (81)	武谷　昌次 (81)
内野　明浩 (83)	野口　政行 (81)	川原　好治 (82)	崎村　耕二 (81)
永留　幸明 (83)	田中幸太郎 (82)	百済　公支 (82)	副島陽一郎 (82)
本村　智章 (83)	上田　信孝 (82)	坂田　和英 (82)	鬼塚　徹 (82)
本木　真二 (83)	時枝　典生 (83)	児玉　篤明 (82)	佐々木克己 (82)
	中竹　茂美 (83)	坂田　浩 (83)	大中　豊 (82)
	井手　俊彦 (83)	福永　達也 (83)	宮地　純 (83)
	古谷　繁明 (83)	坂田　正彦 (83)	吉田　昌義 (83)

西南シャントゥール

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
徳永麟之助　内海　洋一	的野　恭一　福田　豊	内海　敬三　志渡澤　亨	鶴原　太郎　林　照樹
宮地　基次　乙藤　成美	伊東　正義　岸川　均	靏　喜廣　和田　正義	田中　義信　横尾　和夫
河野　正海　出口　幸一	徳永　和彦　矢野　達彦	福田　治　松尾　淳郎	松枝　康匡　藤村　文彬
飛松　智明　山元　一憲	中尾　武史　石橋　一幸	里中　健　小西　真二	野尻　良造　毛利　正明
飛松富士夫　山下　悦朗	波左間　実　窪田　敏博	中嶋　恒生　首藤　純	宮原　詳二　渡部　光晴
大司　真　太田　俊生	菊竹　章剛　杉本　哲也	藤井　政重　砥上　政壽	坂本　則夫
山口　聡	杉山　秀美	井上　昌則	

創立 61 周年（1980 年度：昭和 54 ～ 55 年）　Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

私たちが過ごしたグリークラブの4年間は、世間では第２次オイルショック、福岡市渇水などがあった時代。当時のグリーは上級生で30名弱、そこへ我々1年生が20人程入部。２年後にはアメリカ演奏旅行を控え、先輩達からの親切？ながら厳しい指導が日夜続きました。平日の練習は19時までとなっていた筈が、創立60周年定演でミュージカル「ジーザス・クライスト・スーパースター」を歌だけでなく、振付、踊りを入れてでやることとなり、日曜日以外は毎日21時までの練習が当たり前でした。短いながらもあった夏休みや春休みは、演奏旅行の旅費調達のためにアルバイトに精を出しました。その為か卒業時には同期は13名になっていました。

3年次には第1回アメリカ演奏旅行そして、「創立60周年記念定期演奏会」と大きなイベントが続き、新体制が発足したときは、正直少しホッとしていた（と言うよりは気が抜けた？）時期でした。それでも12月は西南女学院クールベルフィーユ定演賛助や筑紫少女苑訪問をしてこの年を終わりました。

昭和55年３月は関西学院グリークラブとのジョイント、６月には第13回福岡男声四大学合同演奏会を開催しました。

福岡男声四大学合同演奏会では、他の三大学からの依頼もあり合同演奏の指揮を福永陽一郎先生にお願いし、中田喜直作曲の「海の構図」を演奏しました。福岡男声四大学の合同を福永先生が指揮されたのは、これが初めてのことでした。練習指揮は西南グリーＯＢの完戸真人先生にお願いし、福永先生も合同練習のみならず、各大学を回られ個別に指導をされました。

恒例の活動以外に特記せねばならないのは、５月30日開催の福岡女学院創立95周年記念音楽会です。ヘンデルの「メサイア」をオケ付で演奏するもので、今では福岡の年末恒例行事となっていますが、最初はこの記念演奏会から始まりました。女声は当然、福女の現役とＯＧ、男声は西南シャントゥールとグリー現役でした。一週間後に福永先生指揮の福岡男声四大学を控え出演をためらいましたが、終わってみれば参加できたことが良い経験になったと思います。

第29回定期演奏会は11月29日に郵便貯金会館ホールで行ないました。第1ステージは男声合唱組曲「月下の一群」、第２ステージは「イタリア民謡集」、第３ステージは「ビートルズナンバー」より６曲、そして最後が多田武彦の「雨」でした。「雨」を最終ステージにすることに関し、客演の福永先生が「『雨』は大きな曲ではないから、演奏会の終曲ではあまりやらないよ」と言われたことを覚えています。しかし当時４年生だった私達は何となくグリーで最後に歌う曲を「雨」にしたいと思っていました。アンコールは福永先生のピアノ伴奏で「マイ・ウェイ」を歌いました。これは終曲に「雨」を選んだ私達への福永先生の優しい心遣いであったと思います。当時の就活は10月以降であったため、定演時点では殆どの４年生は就職が決まっていませんでした。昭和55年には前年の60周年記念演奏会の記録として、ＯＢの方々のお力を借り２枚組レコードを製作販売しました。（ジャケットの写真が不鮮明なのは、撮影の手配を忘れ、止む無く部員のご家族撮影の写真をお借りしたためです。）

記述者　野間　利博（81期）



福岡男声四大学演奏会（合同指揮：福永陽一郎）



部室にて（パイプに火は着いていません。）



ランキン・チャペルの前にて